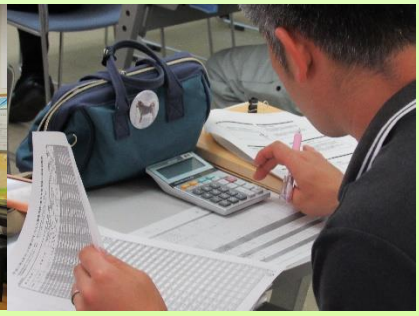
令和元年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

＜総括表＞

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局人口拡大課

もくじ

(1) 令和元年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 6
(3) 吉田地区	P. 7～P. 8
(4) 高津地区	－（育休明けのため）
(5) 安田地区	P. 9～P. 12
(6) 鎌手地区	P. 13～P. 15
(7) 種地区	P. 16～P. 19
(8) 北仙道地区	P. 20～P. 23
(9) 豊川地区	P. 24～P. 27
(10) 真砂地区	P. 28～P. 29
(11) 西益田地区	P. 30～P. 33
(12) 二条地区	P. 34～P. 37
(13) 美濃地区	P. 38～P. 39
(14) 小野地区	P. 40～P. 43
(15) 中西地区	P. 44～P. 46
(16) 東仙道地区	P. 47～P. 50
(17) 都茂地区	P. 51～P. 52
(18) 二川地区	P. 53～P. 55
(19) 匹見上地区	P. 56～P. 59
(20) 匹見下地区	P. 60～P. 63
(21) 道川地区	P. 64～P. 67
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 68～P. 69

【地域魅力化応援隊員とは】
総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和元年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	藤井　洋司	平成 30 年 6 月
2	吉田公民館	吉田地区	石田　令子	平成 30 年 4 月
3	高津公民館	高津地区	梅津　梨紗	平成 29 年 4 月
4	安田公民館	安田地区	尼子　達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手公民館	鎌手地区	横田　裕見子	平成 30 年 4 月
6	種公民館	種地区	岩永　千登勢	令和元年 6 月
7	北仙道公民館	北仙道地区	檜垣　美奈	平成 31 年 4 月
8	豊川公民館	豊川地区	岡﨑　友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂公民館	真砂地区	岸本　真樹	平成 27 年 8 月
10	豊田・西益田公民館	西益田地区	大畑　咲絵	令和元年 6 月
11	二条公民館	二条地区	堀江　宗仁	平成 29 年 4 月
12	美濃公民館	美濃地区	森井　和彦	平成 31 年 4 月
13	小野公民館	小野地区	宮内　英之	平成 30 年 4 月
14	中西公民館	中西地区	吉賀　和之	平成 27 年 5 月
15	東仙道公民館	東仙道地区	青戸　美奈子	平成 28 年 4 月
16	都茂公民館	都茂地区	大谷　昭次	平成 28 年 4 月
17	二川公民館	二川地区	小原　静伍	平成 26 年 4 月
18	匹見上公民館	匹見上地区	大畑　　馨	平成 26 年 5 月
19	匹見下公民館	匹見下地区	藤原　宗則	令和元年 8 月
20	道川公民館	道川地区	高田　純子	平成 26 年 4 月

計 20 名

益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　藤井　洋司

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

１．配置部署

益田公民館

２．配置年月

平成30年６月

３．活動の概要

①活動の内容

●地域自治組織設立のための支援

益田地区地域自治組織設立委員会　４月１日～9月１日

・役員会６回、委員会（全体会議）２回

・地域自治組織「ますだ地域づくり協議会」設立総会　９月１日

【益田地区地域自治組織設立委員会の活動詳細】

・４月18日　役員会

前年度の事業報告、決算及び監査報告の承認

規約（案）・規約細則（案）について審議

事務局長の人選、地域マネージャーの配置について審議

・５月９日　役員会

自治組織の設立時期について審議

・５月29日　役員会

各部会の事業計画について審議

・６月18日　役員会

自治組織設立に向けての現況・課題の確認及び今後の進め方について審議

・６月24日　委員会（全体会議）

前年度の事業・決算及び監査報告について承認

自治組織設立に向けての進捗状況の確認、今後の進め方について審議

・７月４日　役員会

規約（案）について審議

自治組織設立準備と課題について審議

・７月29日　役員会

各自治会長に代議員制の説明・代議員選出依頼の結果について報告

規約細則（案）、設立総会議案について審議

自治組織設立総会の詳細について審議

・８月７日　委員会（全体会議）
　自治組織設立総会の開催及び総会議案について審議
・９月１日　地域自治組織「ますだ地域づくり協議会」設立総会

●地域自治組織設立後の活動支援
　ますだ地域づくり協議会　９月１日～
【ますだ地域づくり協議会の活動詳細】
・９月18日　部会（報告・伝達のため全体会議、その後部会に分かれて）
　設立総会報告、今後の予定について（全体会議）
　部会の副部会長選出、今年度の活動の進め方について審議（部会）
・９月末　まちづくりプラン、規約、事業計画、予算の全戸配布
・10月４日　地域自治組織認定通知交付式（市役所）

・10月10日　役員会
　９月18日の部会協議の報告（各部会の事業の進め方について）、審議
　今後の予定について審議
・10月末　ますだ地域づくり協議会だより発行、全戸配布
・11月18日　安心安全部会
　水害時の避難所マップ作成について審議
　市の指定場所以外で避難可能な場所について審議
　11月18日　歴史部会
　部会で取り組む活動の確認・審議
　観光マップ、学習用マップの作成について審議
・広報ますだ12月号に「ますだ地域づくり協議会」設立の記事掲載
・11月25日　ふれあい部会
　既存団体の活動調査の調査項目・方法・期間について審議
　　（12月1日～12月23日の間に部会員が分担して聞き取り調査を行う）
・12月16日　安心安全部会

益田市危機管理課への聞き取り結果報告
市の指定以外で避難可能場所の検討、今後の進め方について審議

・１月14日　役員会
各部会の活動状況について報告・審議

・１月27日　部会（報告・伝達のため全体会議、その後部会に分かれて）
各部会の活動状況について報告・審議（全体会議）

各部会で活動の進め方について審議（部会）

・１月末　ますだ地域づくり協議会だより発行、全戸配布

・２月17日　ふれあい部会主催、既存団体との意見交換会
各団体の活動状況・課題、連携の可能性について意見交換

②活動の成果及び効果

今年度の大きな成果は、自治組織「ますだ地域づくり協議会」の設立です。

設立準備会の皆さんが、平成26年度から先進地視察や研修、協議を重ねて進めてきた地域自治組織の設立が実現できました。手順を踏み、様々な意見に耳を傾け、時間をかけて活動を進めた事で地区内の理解が得られ設立に至ったと考えています。

自治組織設立は、「まちづくり」を具体化していく新たな活動の始まりです。設立に向かって協議・準備を行う「見えないまちづくり活動」から、5,900 人の住民が注目する中で事業計画に沿って具現化を進めていく「見えるまちづくり活動」へと変わりました。

３つの部会が事業を進めて行く中で様々な団体や個人、学校、行政と意見交換や協力が必要となって来ています。自治組織が出来た事で新たなつながりができ、話し合いの場が持てるようになった事も成果の一つと言えます。

４．残された課題と今後の提案

益田地区は、平均すると月に６～７人の人口が減少しています。年間にすると自治会が一つなくなるのに近い状況です。周辺地区と同じように、交通や買い物など様々な問題がありますが地区内が全て同じ悩みを抱えているわけではなく、場所により状況が異なるため個人や家族で対応する事で地区全体の問題として表面化しにくい状況です。また、地区で一番小さい自治会は最大自治会の13分の1の世帯数でマンパワーや活動費に大きな違いがあります。高齢化や人口減少の進む中で、出来ていた事、出来る事が徐々に出来ない事になりつつあります。益田地区が様々な問題で行き詰る前に、試行錯誤しながら「まちづくり活動」を進める猶予があるうちに始めなければいけないと感じています。

自治組織の設立までは人生経験豊富な先輩方の知恵と人脈に助けられて進めることが出来ましたが、設立した後は若い世代の発想と行動力が大きな推進力になると考えています。若い世代の発想と行動力、先輩方の知恵と人脈が融合する関係性ができるかどうかが活動の成果やスピード感に繋がると考えています。設立準備会で検討してきた事業の実現に向けて活動を始めると、「想定外」や「思いのずれ」があり解決に時間がかかっています。

まだ設立して数カ月で、具体的な成果は無く自治組織の認知度、関心度も高いとは言えません。「見える」、「見られる」活動である事を意識し、自治組織からの一方的な情報提供だけでは「共有する」事にはなりません。地区の皆さんと双方向に情報交換、意見交換を行い、交流の場を持ちながら進める事が大切と考えています。

若い世代が10年後20年後に「こうなったらいい」「こうでありたい」を想像し、夢は大きく、小さな成功体験を積み上げる活動が出来れば「まちづくり」が「仲間づくり」に繋がっていくと思います。

５．地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員２年目で地区の皆さんと顔なじみになって話ができる状況になった事と目前に自治組織設立という明確な目標があった事で一年間活動する事が出来ました。

地区内28自治会のうち、約半数の自治会長が１年の任期で交代する状況で地区説明会が終わってから設立までに時間をかけて年度を跨いだりする事は大きなマイナスになります。地区説明会でいただいた「まず設立して、走りながら考えよう」という意見に背中を押され、設立を最優先する事に決まりました。

設立総会の日を決め、逆算して必要な協議・準備を進めましたが、課題に対し後回しにするか、当初の思いで進むのか紆余曲折があり規約案も二転三転。設立委員会全体で意思統一ができたのは設立総会の25日前でした。設立に必要な資料・作業は事前に少しずつ準備をしていたものの、設立総会前３週間はとても煩雑な業務となりました。

設立後も各種変更・申請手続きや、まちづくりプラン他を印刷・製本して全戸配布する作業に時間を費やしました。

事務局の業務は、情報を調べて先読みし審議のための資料や案を用意する事から、部会の決定・部会員の意見を尊重し、まとめた物を「試作」する業務にシフトしています。部会の活動が活発になればなるほど忙しくなりますが、活動の見える化を行い一人でも多く住民を巻き込みながら活動していければと思います。

吉田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　石田　令子

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

吉田地区

2. 配置年月

平成３０年４月

3. 活動の概要

① 活動の内容

	「吉田の未来を考える会」では、自治組織の組織づくりについて協議し、規約や、まちづくりプラン、事業計画を策定しました。11名の委員による定例会は、年に8回開催されました。		～元気いっぱい人がつながるまち吉田～ 「吉田の未来を考える会」委員と各部会運営員17名にて、「吉田地区地域づくりのスローガン」についてワークショップを行い、意見を出し合いました。
	「防災企画会議」では、防災支援センター、消防団、吉田小学校PTA、考える会委員が集まり、地域防災力の向上を目指して協議を重ねました。「吉田地区防災協議会」の活動に反映されます。		「安全連絡会議」では、「子どもたちの見守り活動」について、小学校の見守り隊、民児協、益田警察、危機管理課、考える会委員が集まり、「見守り活動」の時間や場所が重ならないように調整しました。
	「歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会」では、基本方針や活動計画について協議し、地域の特性を活かしたイベントの開催や、歴史遺産の掘り起しと史跡マップの制作などに取り組むことが決まりました。		「健康なまちづくり部会」では、基本方針や活動計画について協議し、ウォーキングや健康体操の普及活動、健康・運動イベントの開催支援、高齢者が集まる場づくりに取り組むことが決まりました。

吉田地区防災協議会の活動		住民説明会
新ハザードマップの活用について 危機管理課より新ハザードマップの活用方法について研修を受け、その後、吉田地区の防災について質疑応答を行いました。 **防災マップの作り方** 自治会で防災マップを作る方法を学びました。この研修を参考にして、いくつかの自治会では防災マップを作りました。	**自主防災組織の活動紹介** 早くから活動をしている自主防災組織の活動を紹介し、設立を目指している自治会への参考としました。 **「私たちが安全に避難するには」** グループに分かれて、ワークショップ「私たちが安全に避難するには」を行いました。各自治会の防災担当者が意見交換を行いました。	**地域自治組織住民説明会を開催** 自治会長や自治会役員様向けの説明会と、地区住民へ向けての説明会を2回ずつ開催し、地域の皆様から質問やご意見、そして激励をいただきました。 皆様からのご意見は、今後の活動計画に役立てていきたいと考えています。

② 活動の成果及び効果

～地域自治組織設立準備～

本年度は、地域自治組織設立へ向けて定例会や各部会合わせて３０回以上の協議を重ね、まちづくりプラン、事業計画、規約案を策定しました。

住民への周知は、自治会長や自治会役員向けに２回、全住民向けに２回ほど説明会を開催しました。その他、地域自治組織設立に関する文章を全戸に配布しました。住民への周知を行うことにより多くのご意見やご質問をいただくことができました。

～吉田地区防災協議会～

本年度は新たに自主防災組織を立ち上げた自治会はありませんでした。しかし、今までほとんど防災活動をしていなかった二つの自治会が防災支援センターの指導で防災研修を行いました。既に立ち上げている自主防災組織では、活動がより活発になり、それぞれの自治会の防災マップづくりなどに取り組んでいます。

～吉田地区安全連絡会議～

登下校の見守り活動について、益田警察、益田市危機管理課、見守りボランティア、PTA、吉田の未来を考える会委員が集まり、情報交換を行いました。それまで各団体がそれぞれの都合で活動をしており、同時刻の同じ場所で活動することがありました。今回、時間や場所を調整して、より効果的な見守り活動ができるように話し合いました。

4. 残された課題と今後の提案

緊急度の高い課題としては、住民周知が不足していることと、立ち上がったばかりで組織が脆弱なことが挙げられます。

住民への周知や役員・運営委員の「地域づくり研修」などは、事務局が計画を立てて積極的に行い、地域自治組織活動の基盤をつくることが重要と考えます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年は吉田地区の地域魅力化応援隊員として２年目の活動でした。昨年は地域の防災力向上に注力した１年間でしたが、今年１月より地域自治組織を立ち上げる準備に入り、設立目標を１年後の５月と定めました。

設立までにすべきことを逆算して計画すると、ゆとりのないスケジュールとなり、1年があわただしく過ぎました。いろいろと足りない点が多かったと反省します。考える会の委員たちは今までの倍以上の会議に参加し、協議を重ねてきました。各部会ではその分野に詳しい方に参加していただき、議論を深めていきました。

来年度、地域自治組織を設立すれば、さらに活動の幅が広がるので、今まで以上に地域住民の地域づくりへの参加が望めます。活動しながら吉田地区住民の希望や意見の聞き取りを行い、吉田地区の未来について今後も意見交換ができる基盤をつくっていきたいと思います。

安田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　尼子　達夫

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   安田公民館

2. 配置年月
   平成 27 年 5 月

3. 活動の概要
   ①活動の内容
   ・平成 29 年 3 月 18 日に臨時総会を開催し地域自治組織を立上げ、平成 29 年 4 月 24 日（日）総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成 29 年 5 月 18 日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成 30 年 5 月 1 日付けで一般社団法人化し、平成 30 年 5 月 24 日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。
   ・令和元年 6 月 15 日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。平成 30 年度（第一期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、監査報告、令和元年度（第二期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画及び予算について協議しました。
   ・今年度の取組は、「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェはあと運営」事業を実施しました。「パンカフェはあと」は開業以来 2 年目の今年度も営業成績は順調に推移しています。6 月には安田小学校 3 年生 40 名が町探検授業の一環で店舗を見学されたり、9 月には金城学園大学、岡山県立大学、大阪市立大学の教授の皆さんが視察、調査に来られました。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。

【開催日】

第一回　R 元年 7 月 13 日（土）AM9：00～11：00 出店者：29 名来場者：250 名
第二回　R 元年 10 月 13 日（日）AM9：00～11：00 出店者：26 名来場者：300 名
第三回　R 元年 12 月 15 日（日）AM9：00～11：00 出店者：28 名来場者：300 名

『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して 5 年目、需要が年々増加し、住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は、男性 15 名、女性 5 名、平成３１年 4 月から令和 2 年 1 月までの受注件数は 98 件、うち草刈伐採作業が 57 件、庭木剪定作業が 25 件、墓掃除 10 件、その他 6 件です。

『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。旧山陰道と丸山公園の草刈を 2 回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の 4 地区で作業しました。

第一回目　Ｒ元年 6 月 23 日（日）7：00～9：00　参加者：37 名

第二回目　Ｒ元年 10 月 20 日（日）7：00～9：00　参加者：29 名

『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を創ります。

・遠田川河口付近の雑草の刈払い、漂流物の回収除去を行いました。

第一回目　Ｒ元年 7 月 25 日（水）13：00～15：00　参加者：2 名

『パンカフェ運営』事業

平成 30 年 4 月オープン以来、石見津田駅内の「パンカフェはあと」は、二年目を迎えお客様に支えられ順調に営業しています。この「パンカフェはあと」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の方に委託しているものです。営業日は原則、毎週木、金、土、日曜（但し、毎月第三土、日曜休業）の 10 時 30 分から 15 時です。そして、「やすだ村ええもん市」は勿論のこと、各地区で行われるイベントに積極的に参加し売上高アップに尽力しています。6 月には安田小学校の三年生 40 名が町探検授業の一環で店舗を訪れたり、9 月には金城学園大学、岡山県立大学、大阪市立大学の准教授の皆さんが視察、調査のために訪問されました。また、明誠高校の生徒三年生 5 名がキャリアサポート授業の一環で、渡辺孝也氏の指導のもと木製テーブル 2 台、木製椅子 4 脚を製作し、パンカフェの飲食コーナー用として石見津田駅待合室に寄贈設置して下さいました。

『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物支援を実施して下さっています。現在の希望者は津田地区の方のみですが、今後は高齢化と共に希望者が増えてくると思われます。

②活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は、例年通り 7 月、10 月、12 月の年三回開催しました。出店者数（現在 30 名前後）も少しずつ増えており、来場者数も毎回約 300 名とかなり地域に定着してきています。しかし、もう少し他地区に

も広報して拡大したい思いはありますが、会場に限りがあるため今が限界かなと思います。「地域お助け隊」事業は、前年よりも受注件数、収入金額が増えています。今後も草刈、伐採作業等の依頼は増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は年二回 6 月と 10 月旧山陰道、丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。「環境整備」事業は遠田川、嶽川の草刈と海洋漂着物の回収を行っています。最近は海水面の上昇の為か河川の水位も上がり河川内の草刈作業の回数が減ってきています。「パンカフェ運営」事業は平成 30 年 4 月 1 日開業以来 2 年経過しました。開業当初に比べると来店客数が少なくなっているのが気がかりですが、その分外販で頑張っているので、売上は順調に推移しています。現在、営業日を毎週木、金、土、日曜日としていますが、令和 2 年 1 月からは毎週水、木、金、土を営業日とし、日曜日は各地域のイベントに出店する日として売上高アップを目指します。「地域内買物支援」事業は毎月第二、第四水曜日の二回の実施ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会と皆さんと語り合える場となっています。

4. 残された課題と今後の提案

自治組織を今後も継続していく上で最も重要な課題として、後継者の育成があります。平成 29 年 4 月に任意団体としての自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて三年、平成 30 年 5 月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して二年経過しようとしています。スタッフはそれぞれ歳取っていきますので、いつまでこの状態を続けていけるのか心配です。「地域お助け隊」の作業スタッフはほとんどが 60 歳代以上ですが、50 歳代で退職した方に参加してもらうように話しかけて、徐々に若い人が増えていますが、「パンカフェはあと」のスタッフも 60 歳を過ぎていて後継者を早期に育成しなければなりません。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして五年が経過しようとしています。地域自治組織の収益事業は「地域お助け隊」事業と「パンカフェ運営」事業があります。「地域お助け隊」事業の支援内容で言えば、まず地域の方からの作業依頼を受けて、訪問して現場を見て作業内容を確認、見積もりをして、実施日程を決定、作業従事者へ作業依頼をします。作業実施時には必要な機材を準備、現場へ案内し作業着手前の写真撮影、作業進捗状況の確認、作業完了後の確認と写真撮影、作業日報の集計、依頼先への請求書作成と送付、集金、月末には作業員の給与計算と支給、源泉徴収税額の納付、伝票の起票と記帳入力作業が主な流れです。そして法人全体の事務の流れとしては年末に源泉徴収票の交付と税務書類の提出、年度末には法人決算と法人税申告提出、納税事務があります。これに加えて「やすだ村ええもん市」事業、「史跡遺跡整備」事業、「地域環境整備」事業、「地域内買物支援」事業の支援がその都度発生します。現状で今は手一杯といったところですので、これ以上の新規事業は考えにくい状況です。とは言え、より安心して住める地域にするため、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

鎌手地区

地域魅力化応援隊員　氏名　横田　裕見子

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
鎌手地区

2. 配置年月
平成３０年４月

3. 活動の概要
① 活動の内容
・鎌手地域自治組織設立準備会　総会
・鎌手地域自治組織設立準備会　８回開催（Ｒ２．３月開催予定含む）
・自治組織設立説明会の事前調整会議
・自治組織設立のための住民説明会
・地区回覧　３回発行
・特定外来生物防除講習会の実施

② 活動の成果及び効果
≪第１回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　平成３１年４月２２日
≪令和元年度　鎌手地域自治組織設立準備会　総会≫　令和元年５月２０日
≪第３回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和元年６月２１日
≪第４回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和元年７月１７日
〔協議内容〕
・役員の一部交代
・まちづくりプラン、活動計画、規約について協議

今年度末の自治組織設立に向けて計画を立て、進めた。昨年度から引き続き、まちづくりプラン、活動計画、規約について協議した。

自治組織では『思いやり部会』『ひとづくり部会』『魅力づくり部会』の３つの部会をつくり活動していくことを提案。

昨年度の住民アンケートの結果より優先的に取り組む事業としてあげている「草木の処理」「移動手段」については『思いやり部会』で取り組む。

『ひとづくり部会』では青少年育成会議などと協働して既存活動の継続・拡大すること、現在地区でおこなわれている子供の見守りを充実させること等を活動例にする。

『魅力づくり部会』では、かまての観光マップ作り、運動会や水仙ウォークなど、既存イベントの充実・拡大などを図る。

≪第５回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和元年８月２６日
≪自治組織設立説明会の事前調整会議≫　　令和元年９月１８日
〔協議内容〕
・住民説明会に向けての準備

自分たちの住む地域をより良いものとするため、自らが地域の課題、目指すべき方向を共有し「住みよい鎌手」と実感できる地域づくりを行う、という主旨を理解してもらうために、できるだけ多くの住民に聞いてもらえるよう計画した。各町内会に説明会に回るため、まず自治会長、副自治会長町内会長へ事前説明会を開催し、その後、日程の調整をした。

≪住民説明会≫　　令和２年９月２９日～１２月４日
高校生以上 約１，３００人を対象。
全２２町内会　合計４３回
参加戸数：４４３戸　　参加率：７７.６％
参加人数：７６７人　　参加率：５２.５％

準備会会長､副会長が分担し各町内会を説明に回られた｡説明会開催とともに、役員・部会員の募集を始めた。
人口減に危機感を感じ、活動に前向きな意見もあったが、地区の行事などで集まることが多い地域であり、人口が少ない中で新しい組織ができ、負担が増えることへの抵抗がある、との意見も多かった。

≪第６回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和元年１２月１０日
≪第７回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和２年１月１４日
≪第８回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和２年２月５日
≪第９回　鎌手地域自治組織設立準備会≫　令和２年３月１１日　開催予定
≪かまて地域づくり協議会　設立総会≫　　令和２年３月２９日　開催予定
〔協議内容〕
・住民説明会の報告
・役員選定
・部会員募集
・新役員も合同会議
・まちづくりプラン、活動計画、規約、事業計画の確定
・設立総会の計画、資料作成、準備

住民説明会で出た意見も含めて、プラン等を修正する。
役員、部会員の募集をしたが少数の応募しかなかったため、準備会で選定する。
現在も部会員は随時募集しており人材集めをしている。

4. 残された課題と今後の提案

令和２年３月２９日に設立総会の開催を予定している。まずは設立して、できることから取り組んでいく。住民説明会では、まだ組織への前向きな考えが少ないことが課題だと思う。少しずつ取り組みを進めていくことで、住民の方の理解を深め、積極的な参加へとつながっていくことが重要である。鎌手の地域づくりが継続できるよう、経験者の方々の意見、知恵をいただきながら、若い方々の意見を反映できるような環境づくりが必要だと思う。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

年度初めには私自身、自治組織設立までの先が見えず不安でしたが、この一年役員の皆様、地域の方々の力で設立への準備がひとつずつ整ってきました。

地域のつながりや資源を大切にし、地域のために頑張っておられる方が沢山いらっしゃることを日々感じ、鎌手が皆様にとって住みよい町であり続けるよう、力になりたいと思っております。

種地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岩永　千登勢

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   種公民館

2. 配置年月
   令和元年６月

3. 活動の概要
   ①活動の内容

自治組織

種地区では、６月７日各種団体会議等を踏まえ、２５日に地域自治組織「種むらづくり推進協議会」の設立総会を開催し、８月９日に認定交付式が行われた。種地区まちづくりプランに基づき、4 つの部会が活動計画に沿って動き始めた。令和元年１０月には、地域自治組織だより第１号を発行した。

◆ 災害対策部会

８月２６日　第１回部会
１２月　６日　防災についての研修会

◆ 高齢者・子ども支援部会

９月　３日　第１回部会
１１月２０日　第２回部会
１２月　３日、１６日、１８日
介護予防訪問型サービス D について高齢者宅訪問
１月１０日　高齢者福祉課にて申請書と事業計画書について打合せ
１月１７日　訪問型サービス D 実施団体登録認定

◆ 定住対策部会

９月３０日　第１回部会
１０月１６日　集落ごとに空き家調査の依頼
１月　６日　空き家の地図・一覧表のまとめ
２月　５日　第２回部会

◆ 農業振興部会

１１月　５日　第１回部会
１２月　４日　種だより、ふるさと便発送

◆ 役員会

１月２３日　第１回役員会
・各部会の取組みについて・自主防災組織の設立について

その他

◆ 明誠高校キャリアサポート

７月　５日　第１回種地区学習会

７月１７日　第２回『種を元気にしよう』についての課題・解決策
１０月１３日　種地区民大運動会＆松永牛焼肉による交流会
１０月１６日　烏帽子山登山
１０月２３日　高齢者との交流会
１１月１０日　文化祭
１１月１９日　振り返り
２月　３日　キャリアサポート報告会

◆東陽中学校（２年生）ふるさと学習
４月２６日　種地区との交流、松永牧場視察研修

◆ 安田小学校フィールドワーク
８月２０日　個人課題追求調べ自主学習
９月２５日　松永牧場分場訪問
１０月２９日　種地区への提案発表（１班、２班）

②活動の成果及び効果

自治組織

＜災害対策部会＞　第１回部会で、推進体制やまちづくり活動交付金の予算内容について協議。１２月６日、桂木正則氏による、防災についての講演会を開催。自主防災組織の設立について、今後協議していく。

＜高齢者・子ども支援部会＞

９月３日第１回部会。寺子屋、つろうて子育て、高齢者ふれあい配食、月１度の高齢者買い物ツアーは、引き続き実施。買い物ツアーについては第２回部会の中で、生活輸送事業を立ち上げることに決定した。令和２年４月より益田市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスＤ実施団体として活動を開始予定。令和元年１１月末、市に申請書を提出し１月１７日付で認定通知書を交付。今後ボランティア運転手の調整や中部・東部包括支援センターと連携を取り、該当者の調査・審査・認定に向けて進行中。

＜定住対策部会＞　空き家調査の下準備として、１０月１６日、集落ごとに空き家を地図にマーカーする依頼を行った。年明けに応援隊員で地図を一つにまとめたものと一覧表を作成した。それに基づいて空き家を調査し、４月の部会で確認

する。今年度のまちづくり活動交付金の中心となるさくら公園歩道手摺工事は２月実施。

＜農業振興部会＞　第１回部会、今現在動きはないが４～５年の長いスパンで考える。（ドローン調査・鳥獣対策・荒廃地解消活動・後継者担い手育成など）
１２月、種出身者への「種だより」、まなびや工房による「ふるさと便」の発送。

＜役員会＞　１月２３日、今までの流れを活動実績に基づいて再確認し、今後の部会や活動に向けての共有を図った。
・自主防災組織の設立　　・空き家対策

その他

＜明誠高校キャリアサポート＞
種担当の５名は、市県外出身であり、公民館側から種地区の概要を説明し、課題と解決策を考えていただいた。２回目は、①山登りのコースができたのに山の PR ができていない②高齢者増加問題③荒廃農地の増加の３本柱の課題に対し解決策・その後というプランを提出された。これを達成すべく全面的に協力体制で①②＋地区行事にも積極的に参加し、特に運動会では、手伝いや競技参加、応援などで若い力を発揮し、住民から盛り上がったと大絶賛され、運動会後の松永牛焼肉交流会では、住民との親睦を楽しんだ。これをきっかけに彼らの緊張感がほぐれた。烏帽子山登山では急勾配ロープ地帯も難なくクリアし、頂上からの景色に歓声をあげていた。高齢者との交流会ではゲームをしたり話をしたり交流が深まった。③は、草取りなどの案が上がったが、他の取組みに時間を追われたため案だけで終わった。最後の振り返りでは、皆さん優しくて牛肉が美味しかったなどいろいろな感想を述べられ、名残惜しい時間となりキャリアサポートは大成功に終わった。

第一回目 地区学習会

松永牛焼肉

高齢者との交流会チラシ

烏帽子山登山

＜東陽中学校（２年生）ふるさと学習＞
２年生４７名が、自転車で来館し、地区の人のアドバイスでもちつきと猪汁作りを体験した。松永牧場分場へ視察研修を行い交流学習を行った。

＜安田小学校フィールドワーク＞

初回は、種と北仙道地区の小学生３名が夏休みに２日間にわたり公民館を訪れ、いろいろな質問をされた。２回目は、１班２班（１１名）が松永牧場分場へ徒歩で向かい、途中「まなびや工房」「種神楽」「５８年災害」などの話を聞き真剣にメモを取っていた。分場では、生まれて３日から２週間の仔牛の頭に触れたりして貴重な体験をした。

その後の公民館では、積極的なディスカッションを行った。３回目となる最終日は、「種地区の未来、提案発表会」ということで、多数の地域住民が見守る中、１・２班による提案を堂々と発表した。

提案発表　１班
『～子どもも大人も幸せって思える地区～』

提案発表　２班
『地域の人が協力して助け合う地区』

フィールドワーク（松永牧場分場）

4.　残された課題と今後の提案

・６月２５日に自治組織を設立したが、３年間の活動計画はできているが実際に計画通りに機能しているかどうかわからない。住民が主体的に動くというところでは、まだ一部の人の負担が大きい。

・３年前の７月４日、種地区の豪雨災害による被害を基に、災害対策部会の中で自主防災組織の立ち上げ計画が次年度となっている。部会での協議で規約、防災用具準備などをいち早く進めていきたい。

・去年の『あじさい園健康ウォーク』で、以前より花が減っているという声があり、あじさい園の管理、同時に烏帽子山、平家ケ嶽の登山道を整え、より多くの参加者が集まるようＰＲしていきたい。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

採用されて５日目に自治組織についての会議があり、内容が全く分からなかったが、しばらくは事務作業に追われ、４つの部会の活動事業の内容も少しずつ理解できるようになり、地域を回ることが出来るようになったのは、８月９日の認定交付式を迎えたころだった。

毎月の応援隊員会議で、他地区の情報や応援隊員さんの顔もわかり緊張から安心へ変わっていった。地区によって取り掛かっている事業が異なるので、種の皆さんで種らしいことを取り掛かれるようなことはないかと考えるようになった。

種ひだまり茶屋を気軽に利活用できるように８月１日より日中開放しており、その結果、少しずつではあるが、利用が増えたように思う。時計や本棚も作ろうという動きもあり、一つ種の芽が出た。

北仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　檜垣　美奈

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

北仙道地区

2.　配置年月

平成 31 年 4 月

3.　活動の概要

①活動の内容

当地区の地域自治組織「北仙道の明日をつくる会」は、設立後 2 年目を迎え、各部会の活動が活発化しています。

（1）つながり部会

・Kita no-ma―新・北仙道小学校―

次世代育成や世代間交流などを目的に、月 1 回程度、地域の人（大人）と子どもたちが一緒に行うイベントを開催しました。

・図書室リノベーション

物置状態となっていた図書室を昨年度からリノベーションし、地域住民の活動拠点にするプロジェクトです。今年度は、Kita no-ma で看板をつくったほか、まちづくり活動特別補助金を活用し、エアコンとカーテンを整備しました。

・北仙道合宿

小学校高学年から中学生を対象としたキャンプ合宿を行いました。アウトドア体験や竹灯篭の展示、高齢者への訪問インタビューなど、地域住民との交流をメインとした活動を実施しました。小中学生 12 人が参加し、地区住民等 26 人がこの合宿に関わりました。

（2）課題解決部会

・北仙活力隊による草刈り活動等

地域の高齢化が進み、草刈りなどが困難な住民に代わって草刈りなどを実施しました。住民の認知度も上がり、今年度は 12 月末までで延べ 26 件の活動を行いました（昨年度 3 件）。

・北仙よめな会による農産物の生産加工活動

昨年度のまちづくり活動特別補助金を活用して山折集会所に作業場を整備し、今年度保健所への届出が完了しました。

新しい作業場で梅漬けやなすの辛子漬けをつくり地元スーパーで販売したほか、今年は初めて地元スーパーでの店頭販売にも取り組みました。

（3）定住促進部会

・空き家調査

「北仙道に住みたい」と考えている者がいることや、空き家バンクに掲載される北仙道の物件はある程度状態の良いもの（耐震性があるもの）にしたいといった思いから、空き家調査を行っています。

昨年度、空き家のリスト化が完了したため、今年度は家の状態を確認する方法などを学ぶ空き家勉強会を行った後、空き家の目視調査を行いました。

・地域情報の発信

昨年度に引き続き、毎月の自治組織だよりの発行や Facebook での情報発信を行いました。また、竹灯篭イベントの開催時にはポスターを作成し各自治会に配付したほか、北仙道地区のロゴマークを作成しました。

また、今年度中には、地区住民向けのパンフレットを作成し配布するほか、幟旗も作成することにしています。

（図）新しく作成したロゴマーク。北仙道地区で伝えられる「狭姫伝説」をモチーフとしている。

・地域交流基地の設置

毎年 8 月に万葉公園で開催される万葉竹灯篭に出展しようと、公民館の写真教室と協力して竹灯篭ワークショップを開催しました。

②活動の成果及び効果

（1）つながり部会

・Kita no-ma―新・北仙道小学校―

当初は小学校高学年から中学生を主な対象とし、企画しはじめた Kita no-ma ですが、11 月に開催したブレスレット・水引アクセサリーづくりでは、情報を聞きつけた小学校低学年の児童たちも自分から参加するようになりました。

また、11 月の Kita no-ma でつくったブレスレットと水引アクセサリーを、地区文化祭で販売しました。2 月には、その売上を活用し子どもたちが企画したキャンプを行う予定にしています。

（表）Kita no-ma の開催内容、参加人数

日にち	内容	参加者数	内、参加児童・生徒数
7/20	Kita no-ma の看板つくり	13 人	6 人
8/17	キャンドルづくり	19 人	10 人
10/20	水引アクセサリーづくり（大人対象）	15 人	2 人
11/2	ブレスレット・水引アクセサリーづくり	14 人	10 人
12/15	クリスマス会（小学校低学年以上が対象）	31 人	23 人
12/18	しめ縄づくり（全世代対象）	18 人	3 人
1/13	どんど焼き（全世代対象）	43 人	23 人

（写真）Kita no-ma の様子（左）、文化祭で校長先生に販売する様子（右）

・図書室リノベーション

図書室が整備されてからは、北仙道の明日をつくる会の各部会の会議や Kita no-ma などで活用されているほか、住民団体の打ち合わせで活用されたりするなど、地域住民の活動拠点となっています。また、本の寄付・貸出もあり、図書室の機能も発揮されています。

・北仙道合宿

大正大学の学生が事前事後アンケートを実施してくれました。その結果によると、この合宿の前後で「北仙道が好きだ」と答えた児童生徒は、50%から 84%へと増加しました。また、75%の児童生徒が「地域の活動に参加してみたくなった」と回答しました。

（写真）北仙道合宿。大人と子どもが協力してカレーを作った

（2）課題解決部会

・北仙活力隊による草刈り活動等

知名度が上がり利用者が増えているほか、一度利用された方の多くが固定客になってくれているなど、地域住民からは喜ばれています。

・北仙よめな会による農産物の生産加工活動

今年度から新しいメンバーが加わり、山折集会所での活動が再開しました。なすの辛子漬けは大変好評で、3kg 単位での予約が何度もあるほどでした。

（写真）
よめな会販売商品
「なすの辛子漬け」

よめな会は、地産地消や地域ブランドの創出も目的にあげていますが、最も大切にしているのは住民同士の交流の場や生きがいづくりです。今年初めて挑戦した市内スーパーでの店頭販売では高いコミュニケーション能力を生かしお客さまとの交流を楽しんでおり、その後何度も店頭販売に挑戦していました。

（3）定住促進部会

・空き家調査

各地区の目視調査を終え、各戸の空き家カルテを作成中です。今後、状態の良い物件の持ち主に空き家バンクへの掲載や居住希望者への貸出に対して前向きになっていただけるよう、連絡を取っていく予定です。

・地域交流基地の設置

竹灯篭関連では、竹の切り出しから竹灯篭ワークショップ、万葉竹灯篭への出展や北仙道合宿での展示、と多くの方が関わってくださりました。特に、万葉竹灯篭には北仙道からも多くの人が足を運び、北仙道の竹の明かりを楽しんでくださりました。万葉竹灯篭への出展は、市内 20 地区で北仙道が初めてだったということも、地域を盛り上げました。

（写真）北仙道の竹でつくった「竹の鳥居」

4. 残された課題と今後の提案

・子育て世代の参画並びに地区住民への活動周知

地域自治組織が設立して 2 年目となり、各部会それぞれが活発に活動をしています。一方で、昨年同様、活動している世代は 20 代もしくは 60 代以上がほとんどで、子育て世代の部会員はごくわずかだということや、自治組織の活動が地区住民に浸透しきっていない、というのが実態です。

そのため、今年度はまず、30～40 代女性が関心のありそうな水引アクセサリーづくりのワークショップを行ったり、Kita no-ma の連絡を通して子育て世代との信頼関係を築くことに注力しました。

その成果もあってか、1 月の Kita no-ma には、普段自治組織のイベントには参加しない子育て世代の参加が見受けられました。また、行事の特性として敷居の低いものだったせいか、これまで自治組織の活動に参加されたことがほとんどない住民の参加もありました。中には、「当日参加できないから」と、しめ縄だけ持って来てくださる方もいました。

（写真）1 月に開催した Kita no-ma(どんど焼き)の様子

毎月の自治組織だよりの発行や SNS による広報はもちろんですが、こうした誰でも参加しやすいイベントを企画できれば、裾野の拡大につながると思うので、来年度はこうしたことも意識しながら、企画できればと思います。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

配置された当初は、地区内にほとんど知人がおらず苦労した部分もありましたが、すぐに地区の方々に受け入れていただき非常に感謝しています。

北仙道地区に関わるようになり驚いたことは、移住してきた若者が出した意見や提案であっても、否定や批判をすることなく、応援し一緒に取り組んでくださることです。これまで、会議が苦手だった私ですが、明日をつくる会の会議は参加者同士の信頼と心的安全性が保たれており、気軽に発言しやすい環境でした。

来年度からは、応援隊員ではなく一住民としての関わりになりますが、仕事ではなくプライベートでの関わりになるので、より自由に地域と関わることができると考えています。新しい応援隊員さんや地域の皆さんと一緒に、地域の魅力づくりに取り組んでいきたいと思います。

豊川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岡﨑　友臣

令和元年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

豊川公民館

2.　配置年月

平成２６年４月

3.　活動の概要

①活動の内容

Ⅰ．地域自治組織に関わる業務

・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
・まちづくり活動交付金（申請及び提携業務等）
・まちづくり特別補助金（申請及びプレゼン説明等提携業務等）
・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整等）

Ⅱ．まちづくり活動計画

・昨年度に実施した総務省の事業「とよかわの未来をつくる関係人口創出事業」の充実を図る。
・地域資源を生かした魅力ある環境づくりや地域の魅力を定住に繋げる取組みの推進をする。
・未来づくり委員会
　☆地域の暮らしを支える仕組みづくり
　☆既存行事やイベントの見直しの検討　☆お試し居住施設の充実
　☆地域内外への情報発信
　☆第２期とよかわの未来づくり宣言（まちづくり計画）の策定
・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
　☆とよかわ寺子屋の運営　☆中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
　☆地区内外との交流　☆大人の学びの場づくり　☆保小中の活動の支援
・魅力づくり部会
　☆空き家や遊休農地の活用　☆歴史的遺産の保存

②活動の成果及び効果

Ⅰ．地域自治組織に関わる業務

・とよかわの未来をつくる会役員会の開催
　：第１回：平成３１年　４月１８日（木）１９：００～
　　豊川公民館にて役員９名他５名　計１４名出席
　☆未来づくり委員会、ひとづくり部会、魅力づくり部会の組織体制の協議。
　☆役員会の年間スケジュールについて協議。（開催日は毎月第２火曜日）他。

：第２回：令和元年　５月　１４日（火）１９：００～
久々茂集会所にて役員１０名他６名　計１６名出席
☆定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要、規約の一部改正案、シナリオ等）
☆マイクロバス利用規程についての説明。

・とよかわの未来をつくる会 定期総会の開催
：令和元年６月１６日（日）１３：３０～　豊川小学校体育館
☆定期総会、研修会（岡山県西粟倉村役場　地方創生特任参事兼産業観光課長　上山隆浩氏）の開催。
☆住民約１００名の参加により「前年度事業報告」や「前年度収支決算報告」及び今年度の「事業計画（案）」、「収支予算（案）」「規約の一部改正」の承認。

・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況（２月１４日現在）
：役員会１０回、未来づくり委員会１０回、ひとづくり部会３回、魅力づくり部会３回（とよかわのお茶プロジェクト研修を含む）開催。
☆まちづくりプラン、地域づくり計画に沿った活動に取り組むための話し合いを実施している。

・まちづくり活動交付金（６５０千円）は、各委員会及び各部会の活動支援に充当。

・まちづくり特別補助金（６７５千円）は、お試し居住施設（とよかわの家）の備品整備にてエアコン及びカーテンを設置。

・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援
：ひとづくり部会と連携し現在３回の会議を開催。
☆事業活動（とよかわっしょい!!・マスダひとまちカレッジとよかわキャンパス・親子体験プログラム他）の実施及び支援
☆大正大学による地域実習に係る業務支援。（経理事務等）

とよかわの未来をつくる会役員会

とよかわの未来をつくる会定期総会

Ⅱ．まちづくり活動計画

・未来づくり委員会
☆地域の暮らしを支える仕組みづくり→交通弱者対策や生活サービスの一環として健康増進課による「健康づくり活動の実施」等のイベントと併せ、実証実験を計画。視察を含めた買い物ツアーを実施。
☆既存行事やイベントの見直しの検討→役員会と並行して協議。イベントの協議や後の「ふりかえり」により見直しを図る。
☆お試し居住施設（とよかわの家）の充実→まちづくり特別補助金により９月にはエアコン及びカーテンを設置、より快適な居住施設となる。

☆地域内外への情報発信→「とよかわの未来をつくる会」のＨＰの作成、フェイスブック、UI ターンフェアへの参加。豊川地区の情報発信を行う。

☆第２期とよかわの未来づくり宣言（まちづくり計画）の策定→各部会を核として３年が過ぎた。それに合わせ社会の変化や自然災害、火災などをふまえて新たに「安心づくり委員会」の設置を検討している。

・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

☆とよかわ寺子屋の運営→英語教室、バブルサッカー、プログラミング教室、書初め教室等を開催。

☆中高生の活動（とよかわっしょい!!)）の支援→文化祭への出店、中高生による地域活動研修の参加により自己啓発を行う。

☆地区内外との交流→「川戸地域コミュニティ協議会」の視察や金城学院大学等からの訪問調査の受入れによる交流。

２/２２の「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口へ参加予定。先進的な実践事例を通して新しい時代のあり方を学ぶ。

☆大人の学びの場づくり→ひとづくり部会等女性をメインに「色んな人を元気にしていく」企画・運営に取組む。昨年度、好評であった「フラワーアレンジメント教室」、「朝ヨガ&モーニング」や「パッチワーク教室」を実施中。

☆保小中の活動の支援→豊川地区連合運動会など連携して行う活動や保小によるサツマイモ植え体験など「ふるさと教育」の活動を支援。

・魅力づくり部会

☆空き家や遊休農地の活用→前年度の空き家アンケートにより、空き家バンク３件登録。遊休農地の活用では、お茶のワークショップやお茶の実収穫体験ツアーを実施。「とよかわお茶プロジェクト」として活動を開始した。

☆歴史的遺産の保存→地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の階段設置。倒木処理、除草作業により景観を損ねることのないよう環境整備や維持管理を行う。

お試し居住施設「とよかわの家」

フラワーアレンジメント教室

遺跡見学路の階段設置作業

4. 残された課題と今後の提案

Ⅰ．地域自治組織設立に関わる業務

今年度はまちづくり活動計画（３ヶ年）の最終年として、各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりに取組んだ。

地域自治組織設立４年目となる来年度は、「第２期まちづくり計画」によりさらなる拡充を図り、地域のために住民が心を一つにして、夢と希望を持ち活力

ある「とよかわのめざす将来像」に向けた「新しいまちづくり」に取組みたい。

魅力あるまちづくりをめざすためには、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく仕組みの構築を図らなければならいと考えている。

Ⅱ．まちづくり活動計画

昨年度、「とよかわの未来をつくる会」では、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び、課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱とした事業「とよかわの未来をつくる関係人口創出事業（総務省）」に取組み、今年度は充実を図るため各事業に取組んだ。今後は将来にわたり地域住民が安心して住み続けられる環境整備を図り、魅力あふれるまちづくりをめざしたい。

・未来づくり委員会

高齢者世帯の増加、生活面や交通面の対策が急務となっている。少子高齢化や人口減少に伴う担い手不足、各種団体の存続が危ぶまれている。生活の安全安心確保のため、地域の暮らしを支える仕組みの構築が必要と考える。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。地域の交流・移住促進のため、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・魅力づくり部会

後継者や人材不足により空き家や遊休農地が増加。また高齢者の増加や若者世代の流出により地域資源の維持が難しい。地域の活性化・魅力の創出のため空き家や耕作放棄地などの活用、歴史的遺産の保存等環境整備を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただいた。

地区のイベントのサポートとして、地域の現状把握もあり、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月２回）の開催。

次年度も「とよかわの未来をつくる会」をはじめとして、まちづくりプランのテーマである「住みよい豊川・住み続けたい豊川」そして未来へを目標とした「新しいまちづくり計画」のスムーズな進行及び実施できるよう委員会や各部会と連携し事務局としてサポートしていきたい。

豊川地区に配属されて早いもので６年が経った。地域の中で働いているという実感も湧いてきたが、各事業において地域の現況をはじめとして今更ながら地区の方々との交流不足を実感。地域に入り込むためにもより一層の努力が必要だと実感した。

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の運営に際し、地区の方々の惜しみない協力（ボランティアを含む）に頭が下がる。

真砂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岸本　真樹

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   真砂公民館

2. 配置年月
   平成 27 年 8 月（令和元年 10 月 15 日より育児休業から復帰）

3. 活動の概要

① 活動の内容

A）自治組織支援事業

役員会（隔月）・各部会（随時）・その他各種イベント実行委員会、協議会等の会議に関わる日程調整、案内、次第、資料の準備、及び当日の進行・議事録作成等の支援。

B）交流拠点運営事業

H28 年にオープンした「ひら山のふもとカフェ tele-glue（てれぇぐれぇ）」の施設維持管理業務、及び地区内外からのイベント企画や周知のサポート。

② 活動の成果及び効果

A）自治組織支援事業

2 期目に入って役員が若返ったこともあり、会議でより活発な意見交換がなされるようになりました。また、役員会とは別に三部会の合同会議が新たに開催されるようになり、より具体的な取り組みがスピード感をもって推進されるようになってきました。

B）交流拠点運営事業

これまで事務局で担っていた定例カフェ（毎週火・金の午前中開店）が地域住民の運営にかわり、営業時間の拡大や飲食メニュー・その他物品販売サービスの増加等、より内容が充実し、来店人数が平均 10～15 名／回と大幅に増えました。

また、地区外から定期的に月一回の飲食および雑貨販売を兼ねた癒し系美容イベントを開催する女性グループが新たに加わったこともあり、市内外や県外からの参加者も増え、関係人口の増加につながりました。

さらに、小学生が学校の授業の一環で地域の特産品を使ったプリンでおもてなし体験をする「子どもカフェ」の開催、中学生が自主企画として同じく地域の食材を使ったメニューを提供する「中学生カフェ」を開催するなど、施設のオープン当初想定していた地域住民主体による理想的な運営に近づいてきました。

4. 残された課題と今後の提案

次年度は、中学校再編と公共交通路線撤退、さらにJA真砂支所の撤退というこれまでにない大きな課題を乗り越えなければなりません。幸いにも各協議会関係者は大変前向きで、時間が限られる中でも、より今の真砂に最適な状態を目指し課題解決に取り組んでいます。

また、今まで地域のことにあまり関わりのなかった親世代も積極的に夜の会議に参加したり、地域に活動を周知するために尽力してくれるようになりました。この向こう一年の諸活動を通して、今後の地域の担い手育成が図れることを大いに期待しています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は育児休暇をいただいていたので約半年の勤務でしたが、休暇中に私が担当していたカフェ運営業務を臨時職員さんや地域の方が請け負い、復帰後も継続して下さっているおかげで、以前よりも業務負担が減り、その他事務作業に比較的専念することができました。

しかしながら、昨年末より中学校再編と公共交通路線撤退等に関わる会議が昼夜問わず増えているので、これまで以上に各種会議のスケジュール管理やサポートをしっかり行っていけるよう、次年度に向けて業務のさらなる効率化を図りたいと思います。

西益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大畑　咲絵

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   西益田地区

2. 配置年月
   令和元年６月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容
   ◎地域自治組織の設立
   平成３１年４月に地域自治組織設立総会と第１回定期総会を行い、参加者１０７名の下で「西益田まちづくりの会」が設立しました。
   平成２６年に「西益田地域づくりの会」でスタートし、「西益田地区全世世帯アンケート」を行い、86.5%という高い回収率の結果をもとに集計結果を分析する中で、西益田地区の課題を①地域振興、②次世代育成、③地域福祉、④地域安全の４つに集約しました。
   そして、西益田まちづくりの会では、次の大きなスローガンを掲げました。

> “一人ひとりが輝く　いいまちにしますダ!!”
> 「西益田に住むわたしたち一人ひとりが、役割を持ち、輝き、
> いいまちにしていきましょう。」

●運営委員会 …
- 「西益田まちづくりの会」の全体運営、重点項目の統括
- ４検討委員会の活動の確認および統括、アドバイス等
- まちづくり特別補助金の統括
- 「手作りイルミネーション」実施の支援
- 広報活動（周知・情報発信）の統括

●地域振興検討委員会 … “つながりのあるまちにしよう”
- 地域イベントを通して、人の「つながり」と「親睦、連帯感」を培う。
- 住みよい西益田にするために、自然、文化、場所など、何でも活用する。

●次世代育成検討委員会 … “ご縁を未来へつなげよう”
- 各世代をつなぐ企画(取組)をして、豊かな文化や体験や人の思いを受け継ぐ。
- 交流(ふれあい)で「つながり」を深める。
  ※縦、横、団体組織間の関係

●地域福祉検討委員会 … “声を掛け合って支え合おう『つろうて幸せに!』”

・地域の方々の不便軽減のために「困った」に応える取組。

・地域の「ふれあい」「笑い」をてこに、健康な心と体をつくる。

●地域安全検討委員会 …“早め早めの行動で、あわてない安全なまちづくり”

・安全で安心して暮らせるよう、災害、事件、事故から生活を守る。

・鳥獣の被害を減らす。対策により生活を守る。

② 活動の成果及び効果

●運営委員会

☆「西益田まちづくりの会」の全体運営

・今年度は、全体会も含め計６回の会議を開催し、自治組織設立初年度の活動の統括や、４検討委員会へのアドバイスなどを定期的に行った。

☆まちづくり特別補助金の申請

・「横田右岸公園」整備事業

公民館横の右岸公園を多目的広場として、地域振興に活用できるように整備した。樹木や花壇を撤去し、凹凸をならして広場化したことで、沢山の人が集まって活動できるスペースになった。

・「まちづくりデジタル広報活動」の基盤整備と推進

まちづくり委員さんたちの主体的な活動は、外部からは見えにくい。そこで、画像や映像で西益田のまちづくりに取り組む人々の姿や、西益田の良さを地域の方々や、小中学生に伝えるため、モニターやデジタル黒板を使って放映した。

☆「手作りイルミネーション」実施の支援

・今回で７回目となる事業だが、毎年地元の中学生が自主的に参加し、地域の方々とふれあいながら取り組める活動となっている。
寒い冬の時期に賑やかな灯りがともることで、地元の方だけでなく帰省された方々にも楽しんでもらえている。

☆まちづくりの会の広報活動

・毎月広報紙を発行しているほか、いかだ流し大会や地区の文化祭などでもブースを設け、自治組織の活動を地区内外の方に知ってもらえるようアピールした。

●地域振興検討委員会

☆「ギブミーベジタブル　ｉｎ　西益田」への支援

・地域を盛り上げるイベントのひとつで、今回も約３００人の来場者に楽しんでもらうことができた。今後も賑わいや繋がりをつくり出す拠点づくりについてどのように取り組めばよいか、検討を進めていきたい。

☆「おかえりなさい」幟旗の設置

・お盆や、年末年始などの帰省時期に合わせて、西益田地区各地に幟旗を設置し、ふるさとへの思いを高めてもらう取組をした。

●次世代育成検討委員会

☆もちつきデモンストレーション

・地区民同士の交流でつながりを深めてもらおうと、西益田地区文化祭のステージで昔ながらのもちつきのデモンストレーションを実施した。
子どもから大人まで沢山の方が一緒にもちをつき、大いに盛り上がった。
今後も続けて実施していくことを検討している。

●地域福祉検討委員会

☆地区内福祉施設の視察及び見学

・今後の西益田の地域福祉の推進を検討するため、地区内にある３つの福祉施設を視察した。

☆「西益田地区 福祉マップ」の作成

・視察をもとに、西益田地区にある福祉施設や、病院、学校、その他の公共施設などをわかりやすく掲載し、それぞれの施設の役割や利用方法などを高齢者や利用者の方々に紹介する“福祉マップ”を作成し、西益田地区全戸に配布した。
今後は、このマップを地区住民のみなさんに活用していただき、少しでも暮らしのサポートができればと考えている。

●地域安全検討委員会

☆「鳥獣被害アンケート」の実施

・西益田地区内の鳥獣被害の実態を把握し、今後の活動につなげるため、全戸を対象としたアンケートを実施した。配布枚数は 1,352 枚、回収枚数は 783 枚、回収率は 57.9%で、広い範囲に分布している被害もあれば、一部の地域に限定されている被害もあることが分かった。
対処ができないとの回答が多く、地域ごとになんらかの対策を考えることが今後の課題と思われる。

☆入門基本編「防災学習会」

・外部から講師をお招きし、防災についての基本情報や、西益田地域の課題へのアドバイスをいただいた。来場された約５０名の地域の方々は熱心に聞き入り、予期せぬ自然災害への備えを考える有意義な会となった。

4. 残された課題と今後の提案

・自治組織設立初年度は、各検討委員会がそれぞれ掲げた目標に向かって取組むことができたように思うが、委員会によってはひとつの目標に思った以上に時間がかかってしまい、思い通りに進めることができなかった。
もう一度プランを見直し、できることから着実に進めていきたい。

・各自治会との連携がうまくできていない部分があったため、来年度は自治会長さんとまちづくり委員さんの情報交換や意見交換ができる場を設けたい。

・空き家や不耕作地の活用も、今後の西益田地区の課題であるため、検討委員会で取組んでいけるようプランに組み込みたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

年度途中からの配属ということもあり、自治組織とはどういうものなのか、何をするのか、西益田地区の現状はどうなのかなど、一から理解していくことにとても苦労しました。公民館長や主事の方々にも手助けしていただき、何とか初年度を終えることができたな…とひとまずほっとしているのが正直なところです。

まちづくり委員の方々も、お忙しい中積極的に会議に参加していただき、西益田地区を盛り上げるため、様々な意見やアイデアを出しておられ、みなさんの地元愛がひしひしと伝わってきました。

まだまだ未熟で勉強中の私ですが、初年度の反省を活かし、さらに成長できるよう「西益田まちづくりの会」のサポートができればと思っています。

二条地区

地域魅力化応援隊員　氏名　堀江宗仁

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

　　二条公民館

2. 配置年月

　　平成 29 年 4 月

3. 活動の概要

　①　活動の内容

　　平成 27 年 6 月 17 日の地域自治組織第 1 号認定より実質的活動を開始した「 二条里づくりの会 」の「 平成 27～31 年度　元気な邑づくりプラン 」（ 5 カ年計画 ）の最終 5 年目となった本年は、

　　㋐　次世代を育成する事業
　　㋑　住民をふやす事業
　　㋒　高齢者にやさしい事業
　　㋓　新たな産業を興す事業
　　㋔　安全・安心な暮らし事業
　　㋕　環境をよくする事業
　　㋖　里山の環境を活かす事業

　の 7 本柱（ 各種活動計画 ）に沿って本会が活動するに当たり、

　　○　益田市より交付される「 まちづくり活動交付金 」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出業務、及び「 まちづくり活動特別補助金 」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用 PP（ パワーポイント ）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP 操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。
　　○　上記「 交付金 」・「 補助金 」入金後の会計処理業務。
　　○　本会の「 総会 」・「 役員会 」・「 部会 」・「 合同部会 」開催時の案内ライン・メール送信、資料作成、説明・提案、写真撮影・まとめ業務。
　　○　各種事業実施時の資料作成、随行・参加、写真撮影・まとめ業務。
　　○　各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（ 主に PP ）作成、会場準備、随行・参加・PP 操作、資料代等の入金管理、写真撮影・まとめ業務。
　　○　1～2 ヶ月毎に地区内全戸配付する「 便り 」の作成業務。
　　○　各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

　等に従事する一方、令和元年 10 月初頭に中国四国農政局より本会の品川会長宛てに出席依頼のあった

　　●　「 食料・農業・農村政策審議会 企画部会 地方意見交換会（ 中国ブロック ）」

　では、

○　10 月 15 日の事前打ち合わせに臨み、その後、10 月 29 日締め切りの提出文書のやり取りを経て、その後の約 1 か月間を掛けて品川会長と発表時の読み合わせを何回も行ない、付属資料も作成した。

等々の業務をこなし、11 月 29 日の本番に臨んだ次第である。

また、定期総会明けの 5 月 22 日の第 3 回役員会より「 次期邑づくりプランの策定作業 」に着手し、

○　素案の作成・提示、「 各部会毎の当初プランの総括・反省のまとめ 」、「 各部会毎の次期プランのまとめ 」、etc.

をこなし、今期 3 月末には「 最終案 」が仕上がる予定である。

②　活動の成果及び効果

二条地区へ赴任して来てから早や 3 年目となり、随分と地区住民の方々の顔と名前も一致するようになった。

1 年目の「 規約改正作業 」、「 視察受け入れラッシュ 」と「 平成 29 年度中国四国地域鳥獣被害対策優良活動表彰 」、2 年目の「 規約改正成就 」、「 ルーラルミーティング in しまね 」と「 平成 30 年度　ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（ 団体表彰 ）」、そして本年度は「 次期邑づくりプランの策定 」と、中々忙しい 3 年間であったと感じている。

その中で本年度は、昨年度に引き続き「 自主防災組織設立事業 」に注力し、「 まちづくり活動特別補助金 」を用いて地区内全戸に「 ガラス飛散防止フィルムと家具転倒防止 L 字金具 」を配付するという提案をし、本会役員会で承認され、実施出来たということがある。これで、地区内住民の「 防災意識の高揚 」に寄与し、本格的に自主防災組織を設立しようという機運を盛り上げることが出来たのではなかろうか。この点は、成果であり効果はあったと自己評価している。

また、平成 30 年度定期総会での「 規約改正 」を受け、その後の「 視察受入業務 」、「 物品の貸し出し業務 」、「 会計処理業務 」や「 議事録作成業務 」等々が、まだ 100%だとは言い切れないが、かなりまとまって来たのではと感じられる点は成果と言えるのではなかろうか。

特定外来生物防除講習会
（ 令和元年 8 月 4 日開催 ）

自主防災組織説明会
（ 令和元年 8 月 9 日開催 ）

4.　残された課題と今後の提案

最大の課題は、本来なら当初プランの 5 年間の内に「 自主防災組織 」を設立しようという計画だったのだがもう 1 年延び、「 次期プランの 1 年目の設立 」にず

れ込んだことである。ただ振り返ってみると、実際に動き出したのが平成 30 年度からであり、良い方に捉えると「 ベスト 3 年での設立 」と言えるかも知れない。

あと、昨年の報告書でも書いたことだが、

① 「 竹パウダー 」の堆肥化、販売ルート探しとブランド化

② 「 サル囲い檻　第 2 弾 」の建設

③ 空き家の減少促進と I ターン者の誘致

④ 「 二条米 」のブランド化と本会による一元販売

⑤ 「 二条発カレンダー（ 日めくり ）」の制作と販売

⑥ 新規事業への挑戦（ 福祉有償輸送の検討、安否確認等 ）

等々、各部会の事業計画があるのだが、すこぶる順調な事業もあるが、次期プランで止められるものも出て来ている。これは、各部会の判断だから致し方ない面もあるにはあるが、もう少し粘って欲しいということも感じている。

それと、令和元年 12 月末の時点で「 令和 3 年度以降の地域マネージャー制の採用 」と意向表明された本会である。それにより次の 1 年、「 次をどうするか？ 」ということを真剣に話して頂く必要がある。これは、私も勿論加わって話し合いたいと願っていることではあるが、基本は「 地元の決意 」だと思う。

つまり、私が平成 29 年 3 月の面接時に「 法人化するのが夢だ！ 」と語らせて頂いたように、いずれは

○ 「 社会的信用の有無 」・「 流通資金の増大 」・「 専門性 」・「 責任の所在 」

等々により、法人化せざるを得ない状況が生まれてくると思っている。私の場合「 地域マネージャー 」は、この法人を利用すれば 1 番やり易いと考えているので、是非とも「 次期邑づくりプランの 6 年間 」の内に法人化すべきだと考えている。

もう 1 点、令和 2 年 2 月 4 日（ 火 ）に二条地区連合自治会主催で初めて開催された「 旧西南中学校 跡地利用 住民会議 」である。これは、読んで字の如しである。初めての開催で私も傍聴させて頂いたのであるが、その意見は相対的に、

○ 「 老 ⇒ 諦め！ 」・「 若 ⇒ 活用に前向き！ 」

であった。

これは、私の考えでは「 ビッグチャンス 」だと思っている。地区内の 30～50 代の若手の方々と話をすると、廃校利用に様々なプランをお持ちである。これを「 二条里づくりの会 」で手に入れ、活用すべきである。この紙面上では具体的な事は書かない、というか「 書かれない 」が、現実に近い夢満載である。

この点では、今後が楽しみである。

食料・農業・農村政策審議会 企画部会
地方意見交換会（ 中国ブロック ）
（ 令和元年 11 月 29 日開催 ）

旧西南中学校 跡地利用 住民会議
（ 令和 2 年 2 月 4 日開催 ）

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

二条地区での３年目は、

① 「 食料･農業･農村政策審議会 企画部会 地方意見交換会(中国ブロック)」

② 「 自主防災組織設立事業 」

③ 「 次期邑づくりプランの策定 」

の３本が、活動の柱になったと感じている。

その中で①は、これで３年連続して「 岡山 ⇒ 東京 ⇒ 岡山 」と行かせてもらう機会に恵まれ、ある意味度胸が付いたと感じている。

そして②と③だが、②は「 令和３年度末 」、③は「 令和２年５月 」の期限が区切られており、これからも忙しい日々が続くと思われる。

尚、上記した「 法人化の夢 」は、結局この３年間では達成出来なかったということであり、その意味においては「 達成率0% 」である。しかし、これまた上記した「 令和３年度以降の地域マネージャー制の採用 」との意向表明より、

● 「 法人化を含めた、地域マネージャー制の採用 」

を、ある意味「 二条地区での仕上げ 」として何とか成し遂げたい。

この３年間で、かなりの部分「 二条地区 」というものが分かったように感じている。

以 上

美濃地区

地域魅力化応援隊員　氏名　森井　和彦

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   美濃公民館
2. 配置年月
   平成３１年４月
3. 活動の概要

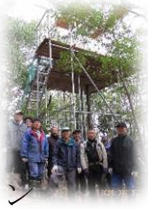
①活動の内容

【地域の魅力化に向けた取組支援（●地域自治組織３部会、◇地域内協力団体）】

● 結い学び部会：「共に学び、絆をつくる」
- 地域マップ（見守り支え合い・防災）づくりのため調査・資料集め
- 歴史の掘り起こしと継承事業（伝統行事・山城整備・史跡の紹介看板設置について協議）
- 歴史ウォーク、AED 講習会、多世代交流グランドゴルフ大会、美濃の歴史の冊子化とウォーキングコース設定の検討

● てごすけ部会：「共に支え合える美濃」
- 外出支援事業「てごすけ号」の運行支援（社会福祉法人と協働）
- 収益事業：耕作放棄地対策（草刈機器の貸し出し）・おたすけ隊事業（軽作業・草刈りの請負）

● ええ出合い部会：「人をつなぎ、未来へつなぐ」
- ＳＮＳ勉強会の開催、ＬＩＮＥの活用、空き家調査（危険家屋の把握と有効活用を模索）
- 地区外への地区広報誌の郵送配布、地区ＰＲ映像の作製
- 特別補助金事業の請負（まちの案内看板・桜田城展望台設置）



◇ ぼんぼりの会：「灯り」が照らす地域再生事業
- 〔春〕流しこいのぼり〔夏〕ぼんぼりロード〔冬〕イルミネーション
- 環境保全整備事業 / 地区内行事の実行支援

◇ ジャスミンの会：「癒し」がもたらす景観向上推進事業
- 景観保全活動〔ヒマワリ〕、特産品開発〔油、石鹸、クリーム〕
- ひまわり祭りの開催により地区外との交流を促進

◇ 美濃ふれあいサロンの会：地域の「笑顔」で交流促進事業
- 年３回のふれあいサロン交流会開催（山菜祭り、そば祭りなど）

他、運動会・文化祭など公民館事業や各種会合。地域団体、地区行事の協力協働。

②活動の成果及び効果

◎歴史（地元学）をテーマに一貫した取り組みが継続できている。
◎安全・安心に暮らすための課題を共有できており、改善の道筋が描かれている。
◎地区内の多世代交流を目的とした催しが複数回ひらかれた。
◎収益事業の地区民への周知が徐々に図られた。
◎地区にゆかりのある地区外在住者との関係を続けることにより「感謝」を伝えられるまでになっている。
◎環境整備することで地域の景観が保全できている。
◎交流事業を地域外にも PR し、人を呼び込むことで関係人口の広がりに繋がっている。

4. 残された課題と今後の提案

地域自治組織「はつらつ美濃の里」は設立３年目を終えようとしています。設立時に掲げた安全･安心で住みよい暮しを維持するためのまちづくり活動計画を３部会の委員中心に事業展開しています、所属の委員ばかりでなく、多くの一般の地区民も自主的にボランティアとして参画されており、住み慣れた美濃地区を自ら守るという気概が感じられる地域です。

しかし、現在のコアメンバーの多くは７０歳前後が中心で、５年先１０年先を展望すると次世代の担い手育成が急務です。そこで次年度に向け、地域づくりに面白さを感じてもらい輪に入ってもらう目的で、多世代交流の機会を増やし、体験や講演会などソフトな対策を講じることで打開できればと思います。

また、地域の子どもたちに向けた働きかけも必要と感じます。「美濃に生まれ」「美濃のあした」をどう思うか、小中高生の目線で描く地域のあるべき姿や課題を語ってもらい、その思いを大人が受け止め一緒になって解決していく。地域活動の活性化をより図るための提案は「ひとが育つまち」に通じる子どもの参画です。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域自治組織において地域づくり活動の後方支援（事務）が主な職責と理解するも、期待される実践の成果が乏しいまま任期が過ぎていきましたこと大変申し訳なく思っています。

従前より「無駄な仕事は一つもない」精神で何事にも向き合ってきましたが、この仕事を通して今までにない世界観が広がり、これまで見過ごしてきたそれぞれの地域で営まれている地道な活動を知り、興味をもってみることができました。

また、行政や各種地域団体、関係団体他、大勢の住民の方々の協働によって取り組まれていることを理解できたのも大きなことでした。

最後に、支え合いの精神により無報酬で地域活動に関わって頂いた「美濃愛」に溢れた地区民の皆さまに助けられた１年であったと心から謝意と敬意を表し振り返りと致します。

小野地区

地域魅力化応援隊員　氏名　宮内　英之

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

小野公民館

2.　配置年月

平成３０年４月

3.　活動の概要

（１）活動の内容

小野地区においては、平成２９年３月に「夢あふれる小野の里」を設立し３年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

「夢あふれる小野の里」においては、前年に引き続き“地域づくりと人づくり”、そして“３つの部の取組み”において事業を実施してきた。

①　地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、研修会の参加や先進地視察に積極的に取り組むこととしている。以前より継続参加している「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に、運営委員及び公民館の職員計９名が参加した。

このフォーラムでは、全国各地の団体より活動事例が発表されている。今後もこのフォーラムへ継続して参加し、地区内の事業推進に向けて先進地の事例を参考にしていきたい。

②　各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　安全・安心なまち

小学校児童の登下校時における「見守り活動の実施」及び、地区内の独居生活者等を支援することを目的とした「草刈り隊の結成」等を主体に協議・取組みを行った。

■　防災

前年度の「まちづくり活動特別補助事業」により地区内全域（２２箇所）に設置した防災掲示板について、地区民の防災意識を高める活動として以下の取組みを行なった。

ア、防災環境部会員が発案した「防災標語」を掲示。

イ、消防庁が掲載している「秋の全国火災予防運動ポスター」を掲示。

ウ、地区内のＡＥＤ設置場所を記した「ＡＥＤマップ」を掲示。

■　定住促進

“若者向けイベントの実施”について、前年度に引き続き取組みを行った。昨年より実施している「しゃべり場」～若い世代の話し合いの場を定期的に開催した。今年度も“若い人たち”（高校生を含む）の意見を踏まえ、「体験活動」を行うこととした。内容としては、

(1)「萩・石見空港マラソン」を小野地区で応援して盛り上げよう！！と、みんな（子ども連れ）で手作りの応援グッズを作成し、当日は友人・知人を誘いながら総勢３５名で活力のある応援を行なった。

この応援の様子を近くで見守っておられた地区内の方より、「子ども達が一生懸命になって応援している姿を見て感動した！　とても良い企画をされましたね！」とお褒めの言葉をいただいた。

個人的な問題として、今年度はスケジュールの都合もよく支援が出来てよかったと思う。今後の活動においても出来るだけ参加したいと考えている。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　検診・健診の受診率向上に向けて

検診・健診の重要性について、昨年同様に「たより」や「おのつうしん」、「防災端末放送」を通じて、地区民へ呼びかけた。１１月に開催された「小野地区ふれあい文化祭」において、パネルを使用して検診・健診についての記事を展示した。また、「ふるさと祭り」において、ポケットティッシュを配布する等の啓発活動を行った。

■　交通対策についての学習会

この取組みは、地区内に診療所を開設するにあたり、高齢者の方々が診療所へ通うための輸送手段を構築することを目的として、「まずどのような手法があるのか現状の認識を行なう」という意味合いで、市役所人口拡大課担当職員を招き、益田市の交通事情について受講した。

市の見解としては、公共交通機関の利用促進が大前提であり、「独自に輸送を行なうことは有償・無償を問わず問題が生じてくる。実施をする時は必ず市担当課への事前協議が必要」と指摘された。

この問題は法律面においても非常に難しい面があり、簡単には実施できない取り組みであると感じた。今後は、買い物支援等も含めた交通対策について協議・

検討をする必要がある。

【生涯学習産業部】

生涯学習･産業部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■　「小野探訪ウォーキング」の実施

“小野地区のことをもっと知ってもらおう”ということで始めたウォーキング大会も早５回目を迎え、今回は「柿本人麻呂」生誕の地である戸田地区を会場にして実施した。

週半ばから雨模様で天候が心配されたが、当日は絶好のウォーキング日和に恵まれ、地区内外から約１３０名が参加し、盛大なイベントであった。

ゴール後には地元自治会より「とん汁」が振舞われ、さらに明誠高校生徒がライフキャリア教育の一環として、「ダンス」や「ビンゴゲーム」等の活動発表を行

い、参加者との交流を深めた。参加された方々は、生徒達の活動を真剣に見守りながら楽しいひと時を過ごされたようです。

この「探訪ウォーキング」も開催地区が一巡し、今後の継続実施及び手法等について検討する予定である。

■　「おの産直市」の実施

設立当初から早期実施を目指して取組んできた「産直市」であるが、昨年度より「先ずは実施」という意気込みで着手した。前年度２回の実施経験を踏まえ、更なる内容の充実を目指して協議・取組みを行った。

今年度は、下記日程で３回実施した。

・第１回　～　５月１９日（日）　午前９時から１０時１０分
　会場:小野公民館　来場者～約１２０名(内スタッフ２０名)
・第２回　～　９月２９日（日）　午前１１時３０分から１２時１０分
　会場：小野公民館　小野探訪ウォーキング終了後
　来場者～約１３０名（内ウォーキングスタッフ５３名）
・第３回　～　１２月１５日（日）　午前９時３０分から１０時３０分
　会場:小野公民館　来場者～約１３０名(内スタッフ１１名)

上記３回の実施を振り返り、とくに第３回目（１２月開催）においては、「まろＣａｆｅ」と同時開催の関係もあり地区外より多くの方が来場し、開店前から行列になるほどの賑わいであった。また、地区内において産物等を出品される方もほぼ定着しつつあり、今後更なる内容の充実を目指して取組んで行きたいと思う。

■　「休日カフェ」の実施

昨年度より地区内有志の方々の発起により実行委員会を結成し、地区民の「憩いの場・くつろぎの場」として休日カフェ（まろＣａｆｅ）を開始した。スタッフ一同更なる試行錯誤を重ね、メニュー等の充実化に向けて取組みを進めた。

具体的な活動として、

・第１回　～　令和元年６月３０日（日）午前９時３０分から１１時３０分
会場：小野公民館　来場者～約１００名（内スタッフ１０名）

・第２回　～　１２月１５日（日）午前９時３０分から１１時３０分
会場：小野公民館　来場者～約１００名（内スタッフ１０名）

・第３回　～　令和２年２月１６日（日）午前９時３０分から１１時３０分
会場：小野公民館　来場者～約１００名（内スタッフ１０名）

次年度以降の継続実施について、関係者と連携を取りながら進めて行きたい。

（２）　活動の成果及び効果

今年度の活動を振り返り、下記の２点が大きな成果として挙げられる。

①「産直市」及び「休日カフェ」を継続実施できたこと。

②「子ども見守り隊」、「草刈り隊」の結成について、実施準備段階までの取り組みができたこと。

「産直市」及び「休日カフェ」については前段で記しているが、継続的に実施できてよかったと思っている。

「子ども見守り隊」、「草刈り隊」の結成については、次年度から本格的に稼動する事業であり、地区民の期待に応えられるような活動の展開に向けて取組む必要がある。

4.　残された課題と今後の提案

事業を運営する３部会には、多くの活動項目が掲げられている。しかしながら安易に取り組むことができない難題が多く、苦慮している状況である。

各部において、事業計画に対する現状の総括を行うとともに、細部にわたり問題点等を整理する必要がある。今後においては、「できることを少しずつでも取りかかる」ということを基本に、進めていきたい。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、やがて２年目を終えようとしている。自分自身の一番大きな成果としては、「おの産直市」を年間３回実施できたことである。これまでの過程の中で、出品者への依頼やスタッフとの調整等、いろんな面で苦慮した経過がある。しかしながら、大きな問題も起きずに盛大なイベントが実施できたことは、関係者の温かい支援のお蔭であると深く感謝をしている。

今後多項目の事業実施に向けて取組んでいかなければならないが、改めて地域の方との意思の疎通を大切にしながら、課題解決に向けて努力していきたい。

中西地区

地域魅力化応援隊員　氏名　吉賀　和之

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   中西公民館

2. 配置年月
   平成２７年５月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容

- 自治組織設立準備委員会
  計３回の会議（役員会含む）を開催し、中西らしい自治組織の構築について協議しました。

- なんでもお助け隊
  中西ヘルスポイント制度の一環として、平成２７年から本格的に活動を開始しました。主な作業は草刈ですが、その他に庭の手入れや病院への付き添いなどの活動を行いました。

- 不法投棄見廻り隊
  現在も絶えない不法投棄への啓発のため重点地域のパトロールを行い、啓発・監視体制の強化を図りました。今年度は、最近不法投棄が増えつつある地区内の広域農道をパトロールしました。

- 花いっぱい運動
  「花いっぱい運動」では、美しい環境を守って、心温まる人間関係つくるために各自治会へ花木（かぼく）を配布し、各自治会が管理する花壇や、私道沿線に植え付け作業を行っていただきました。

- イノシシ用箱罠貸し出し
  地区内のイノシシへの対策として、箱罠（檻）を５基準備し地区住民へ貸し出しを行いました。

- 動物駆逐用手帳保安講習会
  有害鳥獣駆除対策として、今年度も動物駆除用花火使用講習会の開催を予定しており、地区住民の方に受講していただく予定です。

② 活動の成果及び効果

- 自治組織設立準備委員会

　全体的に出席率はよく、委員の関心の高さを感じられます。昨年度二条の取り組みを聴き、自治組織のイメージを共有したが、地区内での意識のまとまりが難しく今年度の設立には至りませんでした。その中で「組織の形はどうするのか」、「どのような事業を行っていくのか」という前向きな意見も聞かれ、様々な意見を基に素案を策定中です。来年度の自治組織の設立に向けて準備段階に入りました。

- なんでもお助け隊

　活動を開始して約７０件の活動を行い、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとなりました。中西ヘルスポイント制度とも連動していることにより、相乗効果も期待できます。今年度は、病院への付き添いの依頼も入り、民生委員をしておられる隊員の方が、付添人として同行しています。

- 不法投棄見廻り隊

　不法投棄の多い個所を黄色のジャケットを着て見廻りすることにより、ゴミを拾うだけでなく、行き交う人の環境美化への意識向上や啓発になっています。また参加される方も意欲があり、パトロール以外でも見廻り活動をされています。

- 花いっぱい運動

　自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりにつながりました。中垣内地区の下平集会所前には、地区の方が植えられた色とりどりの花が植えられ、道行く人の目を楽しませています。

- イノシシ用箱罠貸し出し

　イノシシ対策用の箱罠（檻）の貸し出しを開始して３年目になりました。現在、すべての檻が貸し出し中となっており、地区の方に有効活用されています。

● 動物駆逐用手帳保安講習会

動物駆除用花火を使用できる方は地区内で３０名となっています。今年度も、資格を新しく取りたいという方の問い合わせがあり、地区内の関心の高さがうかがえます。

サルの目撃情報があれば、すぐに対応できる体制が整ってきました。

4. 残された課題と今後の提案

① 自治組織設立準備委員会

昨年度は組織についての情報共有を行い、それを踏まえて地域の皆さんが思う地域の未来像を形にした計画策定を行う予定でした。

しかし、連合自治会と自治組織が同時に存在することで、さらなる負担を懸念される委員が多数を占めており、計画通りに進みませんでした。また組織が立ち上がった後のサポートについても不安がある方がおられました。

まず負担については、委員＝決定機関、地区団体・企業・有志＝活動部隊という組織図を委員全員と共有し、抱かれている不安を少しでも払拭できればと思っています。また、将来的なサポートに関しても、来年度立ち上がる予定の中間支援組織について情報提供を行っていこうと思います。

② 動物駆逐用手帳保安講習会

近年、サルの被害が増えており、花火で追うだけでは被害を減らすことが困難になっています。人に被害が及ぶ前に、サルとうまく共存する方法を専門家と考えていく必要があります。

来年度は、専門家による講演なども計画したいと考えています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員になって約５年となり、地域の方たちの出会いや交流の中で、配属先が中西地区で良かったなと、改めて思いました。

今年度も、ほかの地区の自治組織が立ち上がっていく中で、中西地区は組織の立ち上げには至りませんでした。中西地区は一部自治会を除き、自治会単独での活動が活発であり、連合自治会も機能しています。その中にあって組織を立ち上げる意義を見出せないのだと思います。自治組織の立ち上げは、あくまで通過点でしかありません。立ち上げた後こそが重要であり、それゆえ委員の方は慎重になっているのだと思います。

しかし５年後、１０年後と考えたとき、今とは確実に自治会も変化していると思います。現在活動されている方が元気なうちに、地域を支えられる形を作るべきだと思っています。

中西地区は、住んでみて改めて思いましたが、住みよくて人の温かさに触れることができる場所です。この地区が将来にわたって住みよい地区になることを願っています。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員　氏名　青戸 美奈子

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   東仙道公民館

2. 配置年月
   平成２８年４月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容
   ・東仙道ちいき協議会全体
   　グラウンド・ゴルフ大会、四ツ山歴史ウォーキング、運動会、文化祭
   ・互助部会
   　部会議、東仙道お助け隊事業　お買い物バスツアー事業
   ・地域活性化部会
   　部会議、ふるさとカレンダー事業、四ツ山歴史景観保存事業
   ・福祉健康部会
   　部会議、東仙道寺子屋事業

   ②活動の成果及び効果
   ・東仙道ちいき協議会全体
   　全体会議では、各部会での決定事項の共有をしたほか、見直し時期が近づいているまちづくりプランについて協議をした。
   　また、グラウンド・ゴルフ大会、四ツ山歴史ウォーキング、運動会、文化祭の実行委員会も行いそれぞれ事業の運営も行った。

   ・互助部会
   　「東仙道お助け隊」では、草刈りと木の伐採合わせて１０件の依頼があり、その中には、県外から空き家になっている持家の周りをきれいにしてほしいという依頼もあり、住民やそれ以外のところでも認知度が上がったと感じている。
   　また、(株) キヌヤさんの協力を得て行っている「お買い物バスツアー」も、利用者にとっては月に一度の楽しみとなっており好評である。

【東仙道お助け隊事業】

【お買い物バスツアー事業】

・地域活性化部会

４年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、今年度のテーマを「東仙道の自然」とし、地域活性化部会が写真を選定し、カレンダーを作成中である。

出来上がったカレンダーは、広報４月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、様々な世代間で話をするきっかけになればと思う。

また、まちづくり活動特別補助金を利用した「東仙道四ツ山景観保存事業」では、毎年夏、四ツ山に設置される一夜城のイルミネーションが老朽化し、継続が困難になりつつあり、作業の効率化や電球の LED 化をし、リニューアルした。点灯式では四ツ山かき氷をふるまい、一夜城の設置を始めたやる気会についての話を紙芝居にし、参加者に活動を見てもらったほか、四ツ山展望所付近の木が伸びて四つの山々がきれいに見えなくなったので、木を伐採し、眺望を良くした。３月には伐採した木を使用しての椎茸植菌イベントを予定している。

【ふるさとカレンダー事業】

【東仙道四ツ山景観保存事業】

・福祉健康部会

放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという「東仙道寺子屋事業」を昨年度より開始し、見守りボランティア１８名が交替で見守りにあたっている。

地域の方と顔見知りになることで、地域との接点ができるとともに、学校以外での見守りなど防犯にひと役買っている。

【東仙道寺子屋】

4.　残された課題と今後の提案

・東仙道ちいき協議会全体

地域の代表１１名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が成

り立たない状態であるので、今後はちいき協議会の体制、部会員構成、事業の運営方法についても協議が必要である。

・互助部会

「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、草刈りと木の伐採などの料金細分化について協議を行う。

・地域活性化部会

「ふるさとカレンダー」については、写真提供者が少なく、選定も地域活性化部会員のみのため、狭い範囲での作成となってしまうのが課題である。

カレンダー配布は地域から期待されつつあるので、継続していけるよう、テーマや写真選定方法等について、引き続き協議が必要である。

「四ツ山景観保存事業」については、これで終了とせず、今の景観を保てるよう草刈りや伐採を定期的に行っていく必要がある。

また、展望所や熊子神社を利用したイベント等についても協議を行う。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

東仙道ちいき協議会を設立し、２年目となる今年度は、前年度の反省や教訓を生かし、既存の事業はスムーズに行うことができたが、一方でちいき協議会の体制や事業の進め方、会議の仕方に課題があることに気が付いた。

今後はそれらを見直し、ちいき協議会主体で事業や会議が進められるようサポート役に徹していきたい。

次年度は新規事業を行うことが決定しているので、まずはその成功に向けて準備を進めていきたい。

また、益田市観光協会とも協働し、観光の観点から東仙道地区の認知を広めていきたい。

地域魅力化応援隊員　氏名　大谷　昭次

令和元年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
　都茂公民館

2. 配置年月
　平成 28 年 4 月

3. 活動の概要
①活動の内容
(1)地域自治組織設立支援
　平成 28 年 2 月、地域自治組織設立準備会が立ち上がり、地域自治組織設立への取り組みを進め、今年はまちづくりプランをまとめ、全戸配布するとともに、住民説明会を行いました。説明会では、厳しい意見、要望や賛同の意見等頂戴しましましたが、全体的には理解を示されたと感じています。
　今後は、準備会役員会、全体会、関係団体との調整等を行い、年度内の設立を目指します。

(2)都茂公民館だより美都の方言紹介
　「美都地域の方言を紹介することにより、自分たちの住んでいる地域の良さを再認識するとともに、郷土への愛着の心を育む」ことを目的に都茂公民館だより平成 28 年 5 月号より紹介している美都の方言コーナーも令和 2 年 3 月号で 47 回、紹介した方言は 92 語にのぼります。
　方言の他に田舎には古くから言い伝えられている文句があります。その信憑性は定かではありませんが、それらの中には生活の中で培われた人々の知恵が込められているように思えます。令和 2 年 4 月号からはそんな文句、言い伝えを紹介します。

(3)都茂地区連合自治会輸送活動運営支援
　地域自治組織設立後の主要な活動と位置付けている自治会輸送活動の受付、配車調整、資料整理、会議運営等を行いました。
　今年で 6 年目となる都茂地区連合自治会輸送活動は、地域の高齢者等の外出手段として無くてはならない活動となっています。活動に参加するボランティア運転手は昨年新たに 6 人の参加が得られましたが全体の傾向としては、高齢化等により減少の方向にあり、運転手の確保が課題です。

都茂地区自治会輸送活動利用実績

年	日数	運行日数	運行回数	稼働率	利用人数	1日当たり利用者数
H26	248 日	199 日	549 回	80.2%	606 人	3.0 人
H27	245 日	208 日	666 回	84.9%	765 人	3.7 人
H28	241 日	203 日	657 回	84.2%	738 人	3.6 人
H29	244 日	206 日	647 回	84.4%	749 人	3.6 人
H30	243 日	151 日	488 回	62.6%	535 人	3.5 人
R1	200 日	141 日	502 回	70.5%	543 人	3.9 人

（R2.1 月末現在）

②活動の成果及び効果

まちづくりプラン住民説明会を地区ごとに 4 回行い、地域自治組織の設立に対しては一定の理解を得られたと感じています。

また、まちづくりプランを全戸配布したことで地域自治組織に対する住民の関心を引きました。

4. 残された課題と今後の提案

年度内の設立に向け、準備会役員会、全体会、関係団体との調整等が残っています。

設立後は、プランが絵に描いた餅とならないよう、取り組んでいかなければならないと思っています、

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年は地域自治組織の設立の動きが大きく動いた年でした。会長、役員、委員の設立への熱意も高まっており、年度内設立へ取り組んでいきます。

二川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　小原　静伍

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

二川公民館

2.　配置年月

平成２６年４月

3.　活動の概要

①活動の内容

・地域自治組織「ぬくもりの里二川」の運営

運営委員会及び役員会の会議設定・調整・資料作成

地域課題の調査・研究等の支援

地域マネージャー雇用に向けた準備

・地域魅力化事業の支援

【住む人が住みやすい地域にしていく】

【美都温泉と連携した賑わいを創出する】

【小学校跡施設の有効利用につなげる】

【地区の特産品を創出する】

以上４部会で行われる事業の事務局

②活動の成果及び効果

・会議

総会　１回

役員会　７回（予定含む）

運営委員会　６回（予定含む）

部会　１１回（予定含む）

2019/ 4/ 5	役員会	総会準備 交流施設の間取りについて 石像制作について
2019/ 4/12	運営委員会	総会準備
2019/ 4/14	総会	事業の承認
2019/ 5/23	特産部会	事業の確認
2019/ 6/ 3	運営委員会	石像制作事業について
2019/ 6/ 3	温泉部会	事業の確認
2019/ 6/10	学校部会	事業の確認
2019/ 6/11	住みやすくする部会	事業の確認
2019/ 7/ 1	運営委員会	石像制作について
2019/ 7/ 5	住みやすくする部会	緊急車両の進入困難箇所について AED 講習

2019/ 8/19	学校部会	交流施設について
2019/ 9/ 2	学校部会	交流施設について
2019/ 9/ 5	役員会	体制の見直し(法人化・部会再編)について 講演会について
2019/10/ 1	役員会	石像制作について
2019/10/10	運営委員会	除幕式準備
2019/11/27	役員会	地域マネージャー配置について
2019/12/12	役員会	地域マネージャー配置について
2020/ 2/ 6	役員会	地域マネージャー配置について
2020/ 2/20	運営委員会	地域マネージャー配置について 来年度事業
２月中	各部会	来年度事業
３月中	役員会	総会準備
３月中	運営委員会	総会準備

・事業

【住む人が住みやすい地域にしていく】事業

住民同士で助け合い、住みやすくするための生活支援と生活不安の解消を考えています。

・自治会輸送と買い物バスツアーを組み合わせた買い物対策

・救急車の大型化による進入困難カ所の洗い出しと分遣所との調整

【美都温泉と連携した賑わいを創出する】事業

「地元の人で美都温泉を盛り上げよう！」。

・毎月第３日曜日に温泉モーニングを開催

【小学校跡施設の有効利用につなげる】事業

地域内外の人が集まって、これからの交流拠点を小学校跡地に集約したい。実現に向けて、地域でできることを考えています。

・体験事業（石窯を使ったピザ作り・焼き米作り・養老の滝ウォーキング）

・周辺美化

・交流拠点づくりに向けた取組

【地区の特産品を創出する】事業

石州犬「石号」を活かし、柴犬の聖地として整備する事業を行った。

・石像等製作事業

2019/ 4/21	温泉モーニング	
2019/ 5/19	温泉モーニング	

2019/ 7/21	温泉モーニング	
2019/ 8/18	温泉モーニング	
2019/ 9/15	温泉モーニング	
2019/10/20	温泉モーニング	
2019/10/26	いわみん体験事業	養老の滝ウォーキング
2019/11/ 2	石像除幕式	
2019/11/10	いわみん体験事業	焼き米体験
2019/11/17	食と農の研修	講師:本田節さん
2019/11/17	温泉モーニング	
2020/12/19	温泉モーニング	
2020/ 1/15	温泉モーニング	

4. 残された課題と今後の提案

交流施設の骨子ができあがり、実働部隊として学校部会の再編が必要。また、今年度は広報が十分にできず、事業や組織内部の状況が地域に浸透していない。地域マネージャー雇用による人員増で強化します。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

よい意見がたくさん出て、アイデアが実現できる前向きな会議の雰囲気を作っていきたいです。

匹見上地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大畑　馨

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

匹見上公民館

2.　配置年月

平成 26 年 5 月

3.　活動の概要

①活動の内容及び効果

Ⅰ、地域自治組織設立
Ⅱ、魅力発信
Ⅲ、支援
Ⅳ、環境保全
Ⅴ、視察研修

活動の内容及び効果

Ⅰ、地域自治組織設立

今年度は私にとっても準備委員にとっても大変、勉強になる年度となりました。昨年度末に設立総会の準備を始め、４月に設立総会開催の運びになりましたが、設立総会では、準備不足、代議員とのズレが生じ休会という形になってしまいました。原因としては、先程も述べた様に設立するだろうという安心感や住民周知が十分ではなかったなどの準備不足が１番だと思います。

しかしながら、この休会が再度、委員が考え直せる良い機会になりました。どんな準備が足りなかったのか、それをどう準備をしていくことが良いのか、協議を重ね、総会再開の準備をしてきました。

具体的には、議案事項２である規約を見つめ直すだけはなく、議案事項４，５である活動計画や収支予算も再度協議をしました。また、総会で議長を務めて頂く方も一緒に協議をし、委員の思いを共有しながら進行をしてもらえるような形をとりました。

その結果、９月に設立総会を再開させ、地域自治組織「匹見上 清流の郷」を設立することができました。今後は活動計画に基づきながら、住民の声を拾い、吸い上げ、地区全体で地域づくりを進めていきたいと思います。

設立総会

認定交付式

Ⅱ、魅力発信

清流の郷では魅力発信、支援、環境保全の３つのテーマに分け、活動を進めていきます。魅力発信は、９月にきのこ狩り、１１月にわがまち自慢フェア、２月に真冬の里山体験と自然を使ってのイベント支援が中心となりました。イベント支援が中心となりましたが、イベントの協力を通して、参加者からの感想などを聞きながら、何を足していけば良いのかなど実際に触れることで今後の参考にしながら、まずは交流人口を増加させながら将来的には定住に繋げたいと考えています。また、活動計画にはなかったですが、温泉の一時再開にあわせて餅つきイベントの開催をし、沢山の方に当地区に足を運んでもらえる、良い機会をつくることができました。

きのこ狩り

わがまち自慢フェア

餅つき

山里体験

Ⅲ、支援

支援については、沢山の支援の取組みがありますが、今年度は「支え合いマップ」づくりに取り組みました。取組み内容としては、まずは委員が「支え合いマップ」とはどの様な事なのか把握する為に、福祉協議会へ依頼し勉強会を実施した上で地区に話を持っていく形をとりました。しかしながら当地区は面積が広域の為、全自治会対象では難しいことからモデル的な地区を選定し、その自治会から始める形を取り、来年度も継続しながら、マップづくりを進めていきます。

三笹地区との意見交換会

Ⅳ、環境保全

環境保全の取組の１つとして、動物用煙火講習と特定外来防除講習を実施しました。当地区は近年、田畑での鳥獣被害が深刻化しており、対策の講習会は数年前から同日に行っています。継続受講者には煙火花火を配布し、新規受講者には、煙火花火と煙火花火専用のホルダーを配布しました。また、特定外来防除講習の受講された、希望者には箱罠の貸し出しもしています。この様な講習会を継続しながら、地区全体での鳥獣被害対策をしていければと考えています。また他地区（二条地区）での鳥獣対策研修にも地域の方と参加しました。

特定外来講習

煙火講習

Ⅴ、視察研修

今年度は、浜田市三隅町岡見地区へ視察研修を行いました。岡見地区を含めた浜田市では市全体で防災について取り組んでおられました。その中の行政側の話で、災害が起きた場合、「行政は間違いなく何もしてあげられない。だから災害時は自助や共助が大切になってくる」というが一番、印象的でした。その為に岡見地区を含めた三隅町は全体で防災訓練を行っていました。近年、当地区では大きな災害は起きていませんが、いつ起こるかわからない災害の為に、準備は必ず必要だと考えています。それには、岡見地区の様に市と協力して、どんな準備、対策を考え、訓練等を重ね住民意識を高めるかが大切になってくると思います。

また、岡見地区では買い物・交通弱者対策としてJAの跡地を利用しての「わくわくマーケット」を運営されていました。わくわくマーケットでは、地元の教室で作られたものを販売し、地元住民の生きがいづくりに繋げる工夫がされていました。今回、視察研修の最後に先方の地域づくり協議会の会長が「地域づくりには、後継者を探すのでなく、田舎馬鹿を探すことが大事、皆が笑顔に楽しくやる事が大切」と言われていました。当地区は自治組織が立ちあがったばかりですが、この言葉を胸に委員、会員と一緒になって、地域づくりを進めて行きたいです。

先進地協議

移動販売

４、残された課題と今後の提案

設立準備委員会を立ち上げ６年近く掛かりましたが、今年度地域自治組織「匹見上 清流の郷」を立ち上げることができました。しかしながら、まだまだ住民への周知は十分でない現状と委員の役割の明確化が課題としてあげられます。この課題に対しての共通の改善策としては、自治組織が動きながら、どんなものかを住民へ見せ、委員がどんな形で関わっているのかを示すことが１番の改善策ではないかと考えています。

また、毎年継続して行っている鳥獣被害対策の講習会も高齢化が進む地区においては、継続しないでやめてしまう人もいます。今後は若い世代の住民にも講習会の参加を促し、地区全体での被害対策を目指す必要があると思います。更には受講者が仕事に行っている時間の対策も今後、重要課題となってくると考えます。

５、地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

隊員に配属され約６年が経ちました。振り返ってみると配属当初は「地域自治組織」というものも恥ずかしながら知りませんでしたが、研修会への参加や他地区の設立までの様子を見るうちに、当地区で本当に設立できるのだろうかと心配になることの方が多かったです。その中で今年度、１度は休会という形になりましたが、無事に地域自治組織「匹見上 清流の郷」を設立することができ、大きな仕事をやった満足感と安心感でいっぱいです。これは間違いなく設立まで関わった委員の力があっての事だと思います。

今後は、まちづくりプラン、活動計画を基に進めていくことになりますが、私も町内に住む会員の１人として地区の魅力を発信し、地区の課題の改善を考えながら、より良い地区にしていくことを考えていきたいです。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員　氏名　藤原　宗則

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1.　配置部署

匹見下公民館

2.　配置年月

令和元年８月１日

3.　活動の概要

（１）活動の内容

①第４回「匹見下いいの里づくり協議会」総会（平成３１年４月２１日）

山崎会長挨拶

総会議事

（２）各委員会活動

①地域活性化委員会

１）高槻市サマーフレンドシップ IN 益田‥‥令和元年７月１４日

２）いいの里っ子塾の開催

・地域の子供たちの成長に協力する事業として、取り組み。

・開催への地域の意向を汲むため、アンケート実施。（５月下旬）

・開催内容の検討と正式名称〈匹見下寺子屋（仮称）→いいの里っ子塾〉の決定。

・第１回いいの里っ子塾の開催《しめ縄づくり》‥‥令和元年１２月２５日

３）「おかえりなさい」のぼり旗の設置‥‥ゴールデンウィーク・盆・正月

４）盆踊り支援（４地区）‥‥令和元年８月

５）第８回 INAKA ﾗｲﾄﾞ開催への協力‥‥令和元年９月１日

６）匹見下ふるさと祭り‥‥令和元年１１月１５日

第８回 INAKA ライド

匹見下ふるさと祭り

いいの里っ子塾

②健康福祉委員会

1）いきいき健康 100 歳体操＆スポーツ吹矢‥‥平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月（44 回・参加者　延 440 人）

2）応急手当講習‥‥令和元年７月９日

3）匹見下地区民運動会‥‥令和元年９月１５日

4）各地区サロン活動の支援‥‥平成３１年４月～

いきいき健康 100 歳体操

匹見下地区民運動会

③生活環境委員会

1）「ショップいいの里」日用品販売‥‥平成３１年４月～令和２年３月

2）防火訓練（防火ビデオ鑑賞）‥‥平成３１年４月２３日

3）石見交通「バスの日」（フリーキップ販売）‥‥令和元年９月・令和２年３月

4）ニホンザル対策研修会（二条公民館）‥‥令和元年１０月１７日（９名参加）

5）災害時の緊急連絡対応体制の整備

6）鳥獣駆除花火講習会‥‥令和２年３月１４日（土）

サマーキャンプ会場の草刈り

ニホンザル対策研修会

④その他の活動

１）「いいの里づくり協議会」だより作成（１３号～１５号）

4. 活動の成果及び効果

（１）自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」が５年計画の総仕上げとなった。この間、地区民の自治組織への関心や認識が一層深まり、様々な協議会の活動に多くの地区民の参加・協力が得られている。しかし参加される方も高齢化が進み、後継者不足と相まって今後の活動の停滞も懸念される。

（２）自治組織の稼働拠点「多目的集会施設『いいの里』」は地区内外の人のサロン活動・祭り・講演会・地域説明会等の交流事業や、災害避難場所等に活用され地区住民の重要な活動拠点施設となっている。

（３）自治組織の「地域活性化委員会」「健康福祉委員会」「生活環境委員会」の３委員会は、５年目の事業計画に基づき、それぞれの課題や事業への取り組みを具体的に実施してきた。

１）「匹見下ふるさと祭り」「高槻市サマーキャンプ」「INAKA ライド」への協力等により匹見下地区をアピールすることができた。

２）地域の子供たちの成長に協力する事業として「いいの里っ子塾」を開催し、地区の高齢者の長年の経験と知識をお借りして、しめ縄づくりを行い、地域の子供たちや保護者と交流を深めることができた。

３）事業として引き継いだ「ふれあいの園」ボランティア訪問は、月１度の訪問で入所者とお話し、合唱、ゲームなどを行い、交流を深めた。

４）「いきいき健康１００歳体操」や「健康教室」を通じ、リハ職ボランティアの専門的な知識を活用して、効果的な体操を学び、介護予防の理解を深めた。

5. 残された課題と今後の提案

（１）残された課題

①最終年度に入り、マンネリ化している事業もある。事業内容を仕分けし、有効な事業か、継続可能な事業か検討が必要。

②後継者不足が進み、Ｕ・Ｉターン者や若い世代の取り込みが必要。

③自治組織の自立促進を目指した収益事業の育成が必要。

（２）今後の提案

①自治組織の地区民への浸透と、より参加しやすいイベントや事業内容への改善。

１）地区民の自治組織への理解と参加意識は比較的高いと感じるが、広報や様々なイベント・事業を通して、尚、一層積極的に住民意識を高める必要がある。

②後継者不足に伴い、事業内容の仕訳と絞り込みの必要性

１）若い世代の地域自治組織への取り込み。

２）過疎・高齢化が進み、多くの地区民が様々な組織と活動を重複して担っている。地区民の負担軽減と効率化の為、事業内容を見直し、各種組織の統廃合の検討が必要。

３）自治組織の事業として、やりたい事とできる事との区別をつけ、実行すべきことの優先順位をつける。

6. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

（1）前任の応援隊員の後を受け、匹見下地区に配属され、あっという間に半年が過ぎた。未だ、協議会の取り組みや、人、現在に至るまでの状況など、解らない事だらけだが、少しずつ地域の方々とも打ち解け、今後の活動に小さな光も見え始めてきた。又、多くの地域の皆様に配意して頂き、地区の活動にも参加できるようになった。

（2）活動に参加する中で、地域の課題も少しずつ明らかになり、過疎高齢化の問題と相まって、地区の後継者の育成が急務と感じられる。

（3）地区の大半を占める森林や、清らかな河川など豊かな自然の恵みを実感しながらも、風水害や鳥獣被害などにより壊される地域を守り、いかに後世に残していくか？重い課題として住民にのしかかっている。

（4）活動歴も１年に満たず、地域の現状も多くを把握できていない状況ではあるが、この地域に暮らす人の温かさや、互いに助け合う関係性の深さは、他地域にも誇れる財産であり、自治組織を発展させるうえで、大いに援用していきたい。

道川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　高田　純子

令和元年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

「道川清流さくら広場」

1.　配置部署
　道川公民館

2.　配置年月
　平成２６年４月

3.　活動の概要
　①活動の内容
　■地域自治組織活動支援
　☆組織運営の支援
　・組織を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。
　☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援、公民館との協働。
　・賑わいづくり　・ひとづくり　・暮らしの安心づくり
　☆県「小さな拠点づくり」事業
　・生活支援、人材育成支援・・・現場支援スタッフと現状と課題の共有
　・他地区視察受け入れ・・・・・現場支援地区同士の情報交換等

　②活動の成果及び効果
　■各種会議、研修会の実施
　☆役員会、全体会議　企画委員会　　☆各種地域活動企画会議

　☆地域内交流事業　実行委員会

盆踊り大会実行委員会

地区民運動会実行委員会

親睦交流会実行委員会

■《賑わいづくり》関係人口の拡大

☆人が集まる機会を創る活動

美濃地屋敷、産直市「出合の里」を活動拠点とし、加工販売、イベント、体験活動を実施。加工品や手打ちそば、精進料理など地元食材を主体とし、石見神楽をはじめ、文化や歴史、伝統とを組みあわせ、地域の魅力にふれてもらう機会とした。

美濃地屋敷・・・春祭り(100 人)　秋祭り（300 人）精進料理の提供（28 人）

出合いの里・・・春祭り(500 人)　秋の収穫祭（200 人）

田舎体験・・・そば打ち体験(16 人)　精進料理の提供（33 人）レンコン堀体験（約 18 人）いずれも体験者のみの人数

美濃地屋敷：春、秋　年２回のイベント、菊花展実施、精進料理の提供等

出合の里：春、秋年２回イベント、通年農産物、加工品販売　休憩所の活用

田舎体験：そば打ち体験、石見神楽の鑑賞　レンコン堀体験等

☆地域の宝を活かす活動

猪肉を活用して関係人口の拡大を目的に猪料理の試作を重ね、住民大試食会、を行い、アンケートを実施 11/17(82 名)。猪汁イベント開催 2/2 (150 食)

☆里山の景観を活かす活動（豊かな自然と調和する美しい里山の保全、創造）

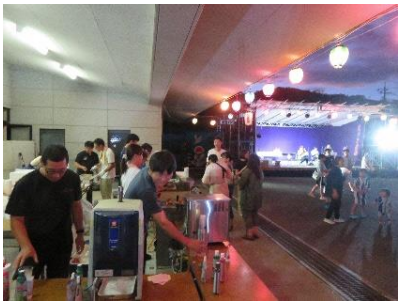
4/13 芝の種まき、5/12 看板の設置、草刈り(年 5 回)　広場の維持管理

☆情報発信　　http://michikawa.info
　ホームページ、フェイスブック等の随時更新の継続

■《ひとづくり》地域の繋がりを強める活動、人材育成
☆講演会の実施　R1.11.17（参加者　82 名）
　　講師：熊本県人吉市 リュウキンカの郷　代表本田節
　　～食を活かした人づくり　まちづくり　生業づくり～

☆地域内交流活動（世代間交流）

R1.11　親睦交流会　住民 62 名　大学生 12 名　地区外より 8 名　計 82 名参加
講演会、昼食(食をてごぉする会の健康食)、しし肉加工惣菜の試食会、アンケート
益田マジッククラブによるアトラクション、広大生の住民聞き取り及び交流



8/13 盆踊り大会 150 名
8/8 盆踊り練習　13 名

10/6 地区民運動会
　　参加者　61 名

10/22 明誠高校キャリアサポート
　青少協とも連携し、中学生を含む 23 名が参加した。

■《暮らしの安心づくり》高齢者支援、助けあいのネットワークの構築
☆見守りや声がけ、配食サービス、高齢者サロンと介護予防を兼ね、公民館と連携

し、毎週 1 回、計 27 回　いきいき百歳体操を実施するなど、高齢者の平常時の暮らしを支援。

見守り声がけ

配食サービス話し合い

高齢者サロン

☆地域防災活動

・緊急情報キット確認…年 1 回の登録台帳の確認の呼びかけ、変更有には対応

・危険災害場所、水取場マップ作成…住民からの聞き取り調査を終了し、図面に記入する作業を完了

・避難訓練、避難所体験実施…12 月 15 日実施　参加者 46 名

●避難できなかった人へは、家まで確認にいき、安否確認実施。。

●段ボールベッドを整備し、夜の避難所を再現　●炊き出し訓練、非常食の試食

●集落ごとに避難訓練の振り返り●地域振興課保健師による実体験から学んだことの話を聞く　●危機管理課に参加してもらい、総評してもらう。

4　残された課題と今後の提案

□来年度、まちづくり計画の最終年度を迎えるにあたって、「住民サロン」「軽作業支援」「生活交通」「小学校跡地利用」等、なかなか議論が進まない課題が残されている。計画立案当時と現在では住民の年齢構成等が大きく変わってきており地域で出来ること、出来ないことがより明確になってきたように感じる。

今一度、現状と課題について整理し、見直す必要がある。地域の実情に寄り添い、地域全体の関わりの中で実行可能な「5 か年プラン」を策定していく。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

5 年後、10 年後の道川地区を考えたとき、不安しか持ちえなかった「住民井戸端会議」から 6 年。人口減少は確実に進み、空き家も増えてきました。地域活動も縮小していくのかと思いきや、組織設立後は活動の幅が広がっています。「必要だと思えば負担ではない！」と言われる皆さんの地域を思う気持ちにいつも心打たれ、共に活動させていただけることをうれしく、感謝しています。皆さんが気持ちよく、安全に活動できるよう、気配り、目配りを大事にして、小さい地域だからこその魅力を共に守り、育んでいけたらなと思う今日この頃です。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成２６年４月１日
益田市告示第７７号
改正　平成２７年６月１２日告示第１５０号
平成２９年３月１３日告示第４７号
平成３１年３月２９日告示第９０号
令和元年５月１日告示第１号

（趣旨）

第１条　この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（配置）

第２条　市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1)　益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成２９年益田市告示第４６号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2)　益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成２７年益田市告示第１１号）第５条第２項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

（任命）

第３条　市長は、公募又は前条各号に規定する団体からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

（身分）

第４条　応援隊員の身分は、地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第１７２条第３項ただし書及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（任期）

第５条　応援隊員の任期は、１年以内とし、再任用を妨げない。

（所掌事務）

第６条　応援隊員は、配置される地区における第２条第１項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

（報告）

第７条　市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この告示は、平成２６年４月１日から施行する。

（有効期限）

２　この告示は、令和２年３月３１日限り、その効力を失う。

附　則（平成２７年６月１２日告示第１５０号）

この告示は、平成２７年６月１２日から施行する。

附　則（平成２９年３月１３日告示第４７号）

この告示は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、附則第２項の改正規定は、平成２９年３月１３日から施行する。

附　則（平成３１年３月２９日告示第９０号）

この告示は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則（令和元年５月１日告示第１号）抄

（施行期日）

１　この告示は、令和元年５月１日から施行する。

発　行　令和２年３月
発行元　益田市政策企画局人口拡大課
〒６９８－８６５０　島根県益田市常盤町１番１号
TEL　０８５６－３１－０６００
FAX　０８５６－２３－７７０８
E-Mail：jinkokakudai@city.masuda.lg.jp